



# **CP-ACCEL**

## **CP-ACCEL Ver.2.1**

### **ユーザーズ・ガイド**

ドキュメント・リリース 2016 年 11 月 1 日  
ソフトウェア・リリース 2016 年 11 月 1 日



住友セメントシステム開発株式会社

## 目 次

<u>1章. はじめに</u>	<u>3</u>
<u>2章. システム要件と前提条件/制約事項</u>	<u>5</u>
1. システム要件	5
2. 比較ファイル形式要件	5
3. 前提条件/制約事項	6
<u>3章. インストール</u>	<u>7</u>
<u>4章. ライセンス管理</u>	<u>12</u>
1. CP-ACCEL のライセンスについて	12
2. ライセンス認証の前提条件	12
3. ライセンス認証	13
4. ライセンス代理認証	15
5. プロキシ設定	21
<u>5章. 機能一覧</u>	<u>23</u>
1. CP-ACCEL 比較設定概要	25
2. 比較設定の基本ルール	26
3. ファイル比較のルール(テキスト、画像)	27
4. SAP テーブル/グリッドスクロールキャプチャ機能の利用	29
<u>6章. 機能と操作</u>	<u>33</u>
作業フロー	33
0. アプリケーションの起動	35
1. 共通設定「プロジェクト設定」	35
2. 共通設定「拡張子設定」	39
3. ログ出力レベル(CP-ACCEL 設定)の設定	46
4. 比較設定「テキスト比較」	49
5. 比較設定「画像比較設定(共通)」	67
6. 比較設定「画像比較設定(個別)」	77

7. メンテナンス	89
8. ファイル比較(テキスト比較)	97
9. ファイル比較(画像比較)	102
10. エビデンス作成	107

## 1章. はじめに

CP-ACCEL は、画像・テキストファイルの比較やエビデンス作成を行うソフトウェアです。  
比較対象外範囲/比較対象範囲の指定により、現新システムの比較検証時には「(伝票番号や時間などの)正しい差異」を無視して比較検証を行うことができます。

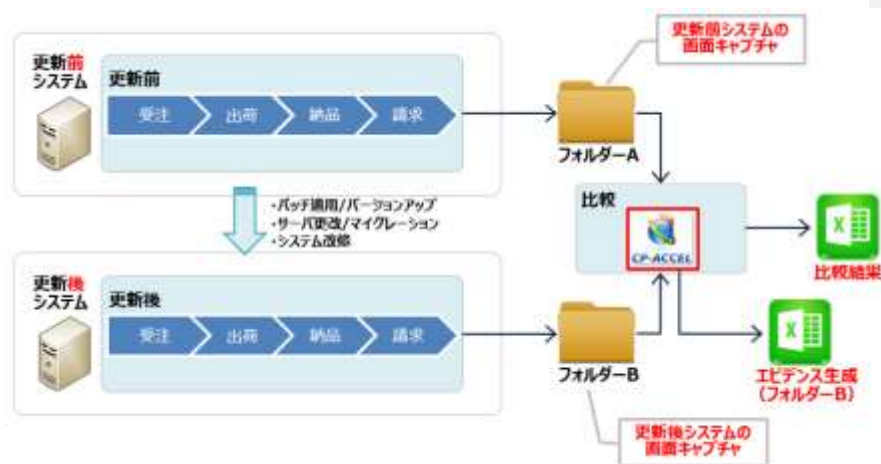


## CP-ACCEL の効果的活用シーン

🌈 CP-ACCEL は、SAP システムをはじめとする各種業務システムの現新比較やエビデンス作成が必要なシーンにおいて効果を発揮します。以下にいくつかの具体例を挙げます。

- ① システムのパッチ適用やバージョンアップ時に、変更前後の環境でテストを行い、変更点検出のために画面比較を行う場合。
- ② サーバ入れ替えなどのマイグレーション時に、変更前後で画面比較を行い、以前と同様にシステムが動作することを確認したい場合。
- ③ システム改修時のリグレッションテストにおいて、改修前後の画面比較により動作の同一性を検証したい場合。

【活用例】



## 2章. システム要件と前提条件/制約事項

### 1. システム要件

分類	項目	システム要件	補足
PC	OS	Windows7 SP1 (32bit/64bit)	日本語版
	CPU	1.6 GHz 以上	
	メモリ	4GB	
	HDD	最低 10GB の空き容量	
	ディスプレイ	XGA(1024×768)以上の解像度	
	色の設定	High Color(16 ビット)	
	グラフィック・カード	64 MB のビデオ・メモリ搭載のグラフィック・カード	
	前提ソフトウェア	.NET Framework 4.0 .NET Framework 4.5 Microsoft Excel2007,2010	

### 2. 比較ファイル形式要件

🚩 比較ファイル形式は以下の種類に対応しています。

- ✦ 画像ファイルは bmp、png 形式のみ対応しています。
- ✦ テキストファイルは以下の形式をデフォルトとして拡張子を設定していますが  
中身がテキスト形式の場合は、比較が可能となりますので、必要な拡張子を追加設定してください。

種類	形式	内容	補足
画像	bmp	Bit Map	Windows 標準の画像形式
	png	Portable Network Graphics	フルカラーに対応した画像形式
テキスト	txt	テキスト形式、固定長	左記はデフォルトで登録される拡張子 以下の文字コード形式のファイルに対応 ・ SJIS ・ UNICODE(UTF-16)
	csv	カンマ区切り形式	
	tab	タブ区切り形式	
	xml	XML ファイル	
	log	ログファイル	
	dat	データファイル	
	htm	Web 用 HTML ファイル	
	html	Web 用 HTML ファイル	

### 3. 前提条件/制約事項

No.	項目	内容
1	アプリケーションの制約	作成した「プロジェクトファイル」を複数の人と共有で利用する場合、CP-ACCEL 側で排他制御チェックはしておりせん。 同時に同じ「プロジェクトファイル」を開き「拡張子設定」「ログ出力レベル設定」「テキスト比較設定、画像比較設定（共通、個別）」を行った場合は、最後に保存した人の設定が適用されます。
2		CP-ACCEL では、多くのメモリを使用するため、大量の「ファイル比較（テキスト、画像）」、「エビデンス出力」を行う場合や大量のデータを含むファイル比較を行う場合、使用する PC のスペックにより、PC が不安定なことや、長時間応答がないケースが発生する場合があります。 実行前に、他の起動中のアプリケーションのデータ保存、及び使用していないアプリケーションの停止をお願いいたします。

## 3章. インストール

CP-ACCEL のインストールには、以下の 2 種類があります。

※インストール時は、管理者権限のユーザ ID にてログインしてください。

### 1. 新規インストール

- ・ PC に初めて CP-ACCEL をインストールする際に利用します。CP-ACCEL のプログラムを PC にインストールします。

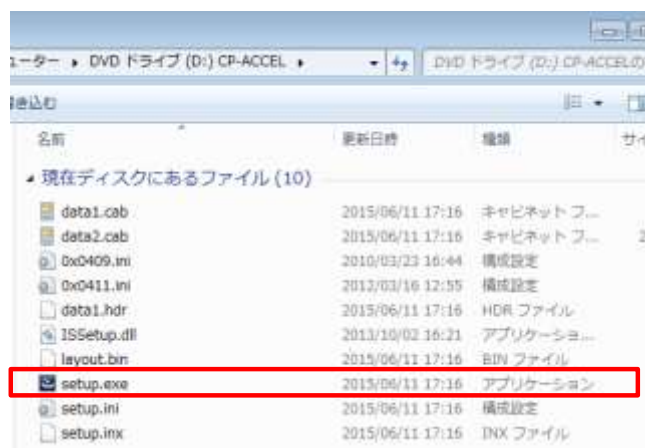
### 2. 更新インストール

- ・ CP-ACCEL がインストールされている PC に対して、不具合対応・機能拡張・新バージョンなどプログラムを更新する必要がある場合に利用します。

まずは、CP-ACCEL のインストール媒体をインストールする PC のドライブにセットし、エクスプローラーでインストール媒体を開きます。

CP-ACCEL セットアップの初期画面を表示する手順までは、どのセットアップ方法の場合でも共通となりますので、以下の手順に沿って作業を進めてください。

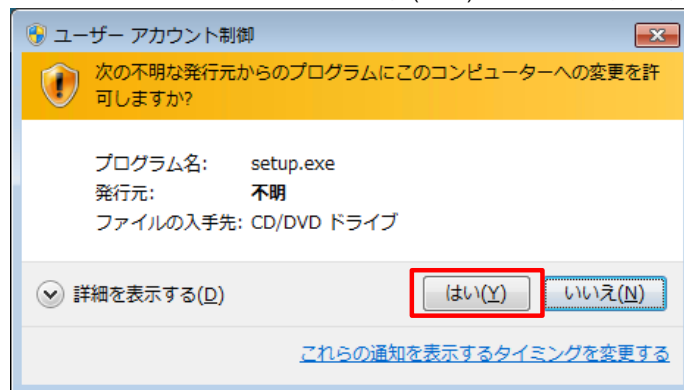
#### 1. インストール媒体より、Setup.exe を起動します。



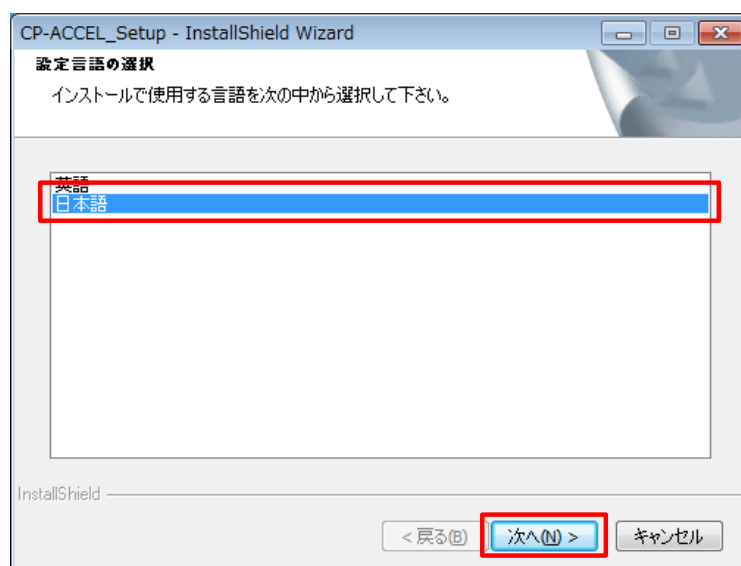


2. 以下の「セキュリティの警告」画面が表示された場合は、「実行」ボタンをクリックします。

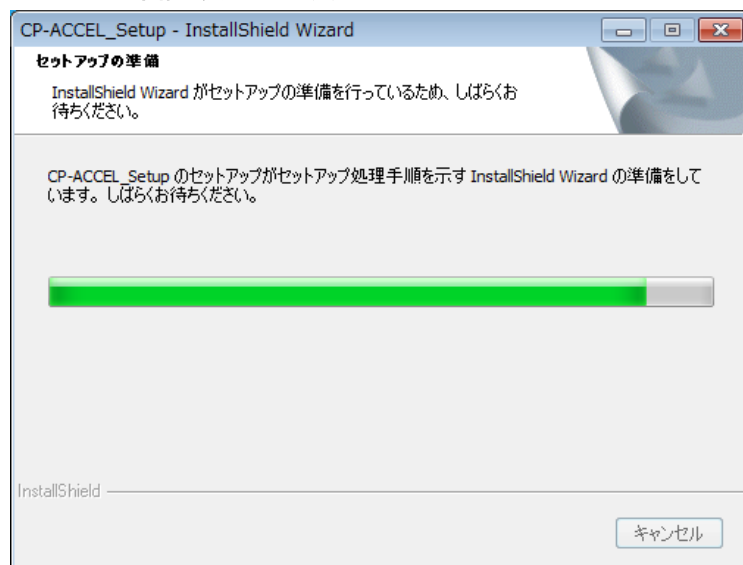
▶ Windows7 にて、ユーザアカウント制御(UAC)を設定している場合に表示されます。



3. 使用する言語を選択し、「次へ」ボタンを押下します。



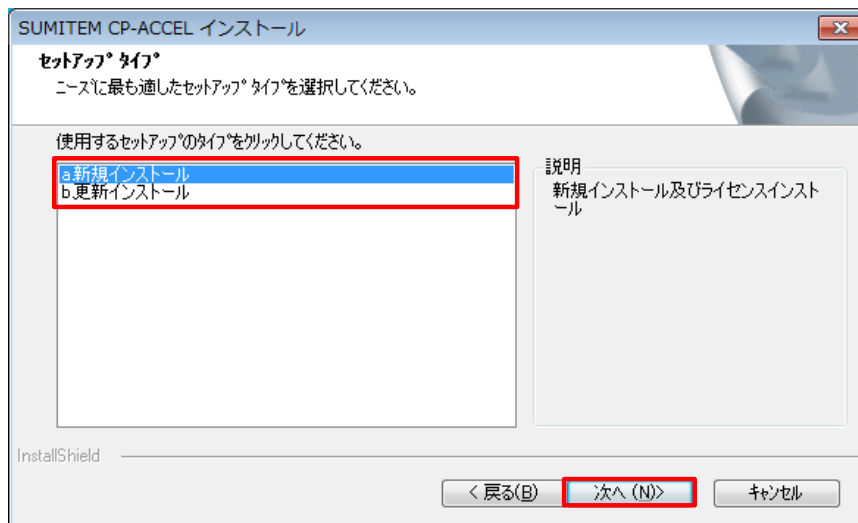
4. セットアップの準備が実行されます。



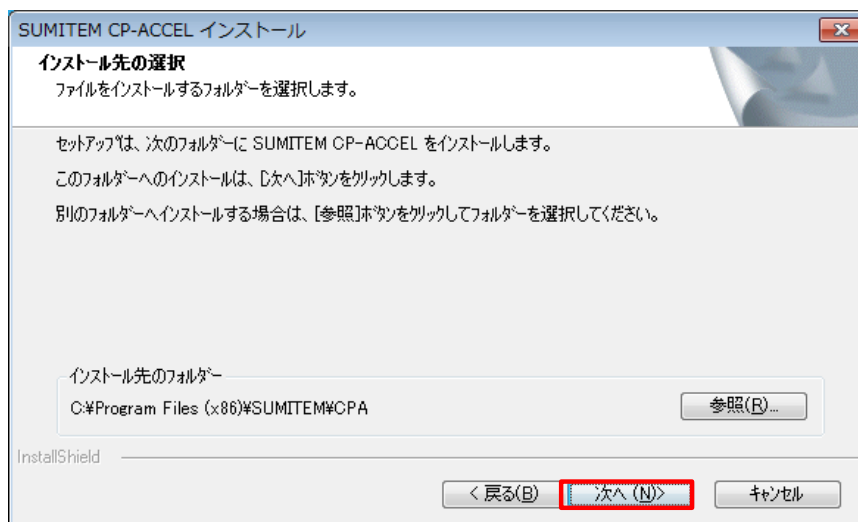
5. CP-ACCEL のセットアップ初期画面が表示されます。「次へ」ボタンをクリックします。



6. 「セットアップのタイプ」選択し、「次へ」ボタンを押下します。



7. 「新規インストール」の場合、インストール先フォルダを指定します。「次へ」ボタンをクリックするとインストールが開始します。



8. インストールが完了すると、以下の画面を表示します。「完了」ボタンを押下します。



## 4章. ライセンス管理

### 1. CP-ACCEL のライセンスについて

CP-ACCEL のライセンスには、製品ご購入前の評価用に評価ライセンスをご用意しています。  
ただし評価用ライセンスには下記のとおり制約がありますので、ご注意ください。  
評価ライセンスで CP-ACCEL を評価後、プログラムを再インストールすることなく、正式ライセンスに移行することも出来ます。  
ライセンスは、評価用ライセンス・正式ライセンスともに PC 固有のライセンスを発行し、PC に対して個別にライセンス認証の手続きを実行する必要があります。

#### 評価ライセンス時の機能制限

テキスト比較	1 回の実行につき、最大 5 つの組み合わせ (10 ファイル)、レコード制限なし
画像比較	1 回の実行につき、最大 5 つの組み合わせ (10 ファイル)
エビデンス生成	1 回の実行につき、最大 5 ファイル

コメントの追加 [斎藤1]: 評価ライセンスの動作条件を変更

### 2. ライセンス認証の前提条件

前提条件は QC-ACCEL を実行する PC が以下の URL に接続できることになります。

URL : [http://leaps.pegasys-inc.com/cgi-bin/LEAPS\\_Server.cgi](http://leaps.pegasys-inc.com/cgi-bin/LEAPS_Server.cgi)  
ポート : 80

- ◆ 認証対象 PC で上述の URL に接続できないが、別の PC で接続できる場合
  - ▶ 「4.ライセンス代理認証」にて、認証ください。
- ◆ 上述の URL に接続できる PC がない場合
  - ▶ 「ライセンス代理認証」を弊社にて実施いたしますので、「4.ライセンス代理認証」にて、ライセンスファイルを作成し、弊社へお問い合わせください。

### 3. ライセンス認証

- ① ライセンス認証前に CP-ACCEL を起動すると、以下の画面が表示されます。  
「ライセンス認証」をクリックしてライセンス認証ウィザードを開始します。



- ② インターネットに接続できる PC の場合、「インターネットに接続して認証」を選択して、「次へ」をクリックします。



- ③ 「プロダクトキー」を入力して、「次へ」を押下します。



- ④ 「処理が完了しました。」と表示されれば、ライセンス認証は完了です。  
「OK」をクリックすると、CP-ACCEL が起動します。



## 4. ライセンス代理認証

### ① 【CP-ACCEL を利用する PC で実行】

ライセンス認証前に CP-ACCEL を起動すると、以下の画面が表示されます。  
「ライセンス認証」をクリックしてライセンス認証ウィザードを開始します。

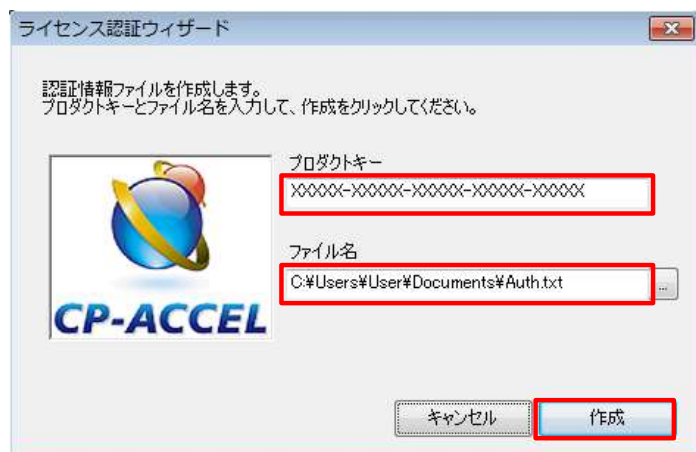


### ② 「認証情報ファイルを作成」を選択して、「次へ」をクリックします。





- ③ 「プロダクトキー」、「ファイル名」を入力して、「次へ」をクリックします。



- ④ 「処理が完了しました。」と表示されれば、ライセンスファイルの作成は完了です。「OK」をクリックした後、CP-ACCELを終了してください。



- ⑤ 上記手順で作成したファイルを、ライセンス代理認証を行うPCにコピーします。

⑥ 【ライセンス代理認証を行うPC で実行】

ライセンス認証前に CP-ACCEL を起動すると、以下の画面が表示されます。

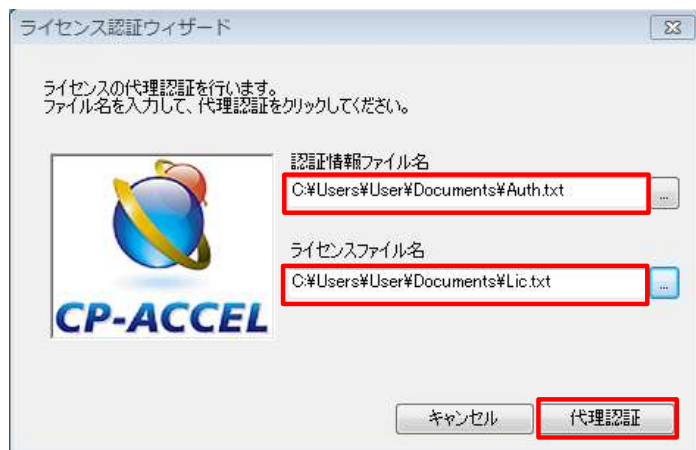
「ライセンス認証」をクリックしてライセンス認証ウィザードを開始します。



⑦ 「ライセンス代理認証」を選択して、「次へ」をクリックします。



- ⑧ 「認証情報ファイル名」(手順③で作成したファイル),「ライセンスファイル名」を入力して、「次へ」をクリックします。



- ⑨ 「処理が完了しました。」と表示されれば、ライセンスファイルの作成は完了です。「OK」をクリックした後、CP-ACCEL を終了してください。



⑩ 上記手順で作成したファイルを、CP-ACCEL を利用する PC にコピーします。

⑪ 【CP-ACCEL を利用する PC で実行】

ライセンス認証前に CP-ACCEL を起動すると、以下の画面が表示されます。

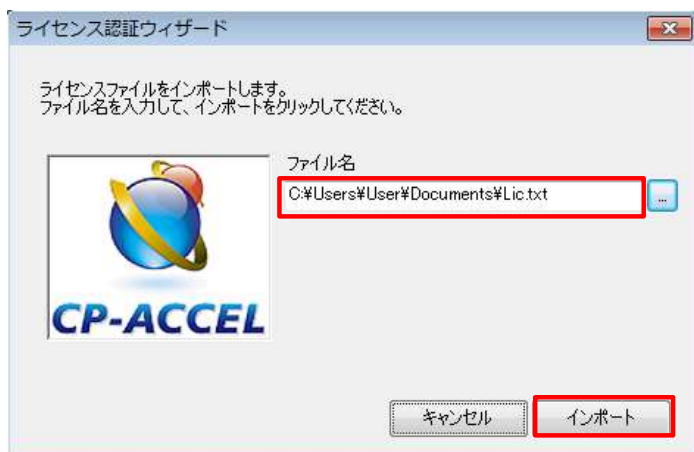
「ライセンス認証」をクリックしてライセンス認証ウィザードを開始します。



⑫ 「ライセンスファイルのインポート」を選択して、「次へ」をクリックします。



- ⑬ 「ファイル名」(手順⑧で作成したライセンスファイル)を入力して、「次へ」をクリックします。



- ⑭ 「処理が完了しました。」と表示されれば、ライセンス認証は完了です。「OK」をクリックすると、CP-ACCEL が起動します。



## 5. プロキシ設定

プロキシサーバをご利用の環境でライセンス認証(インターネットに接続して認証)、ライセンス代理認証を行う場合は、プロキシ設定を行ってから各手順を実行してください。

- ① ライセンス認証前に CP-ACCEL を起動すると、以下の画面が表示されます。  
「ライセンス認証」をクリックしてライセンス認証ウィザードを開始します。



- ② 「プロキシ設定」をクリックします。




- ③ 「プロキシサーバを使用する」をチェックして、「サーバ」、「ポート」を入力します。  
認証が必要な場合は、「プロキシサーバは認証が必要」をチェックしてユーザ、パスワードを入力します。

各情報を入力後、「OK」をクリックした後、ライセンス認証作業を行ってください。

ライセンス認証ウィザード

プロキシサーバを使用してインターネットに接続している場合、  
プロキシサーバの設定を行います。



☐ プロキシサーバを使用する。  
サーバ:  ポート:

☐ プロキシサーバは認証が必要  
ユーザ:   
パスワード:

OK キャンセル

## 5章. 機能一覧

No.	機能名	機能概要
1	共通機能	
	プロジェクト設定	比較設定を1プロジェクト単位として新規プロジェクトの登録、既存プロジェクトの選択を行います。 ※比較設定は、プロジェクトの単位で比較対象ファイルのファイル名をキー項目とします。プロジェクトを跨いで同一のファイル名が複数存在する場合、プロジェクトによって区別が可能です。
	② 拡張子設定	比較対象となる画像の拡張子、及びテキストの拡張子の設定を登録します。
2	比較設定	
	① テキスト比較設定	テキストファイルに対し、ファイル単位で比較対象外範囲/比較対象範囲の設定を登録します。 ※比較対象外の指定は正規表現を用いることが可能 (行の位置指定、列、全て)
	② 画像比較設定(共通)	対象の全ての画像ファイルに対し、比較対象外範囲/比較対象範囲の設定を共通設定として登録します。 ※プロジェクト内の全画像に有効な設定
	③ 画像比較設定(個別)	画像ファイルに対し、ファイル単位で比較対象外範囲/比較対象範囲の設定を個別に登録します。 ※該当の画像のみに有効な設定 ※画像比較設定(共通)の適用有無を指定することが可能
	④ メンテナンス	テキスト比較設定、画像比較設定(共通/個別)で設定した設定内容を、対象フォルダ内のファイルに対して、個別に割り当て登録します。 ※指定フォルダ配下でサブフォルダ内に同名のファイルが複数存在する場合は、同名ファイルのすべてに対し、同一の比較設定がされます。

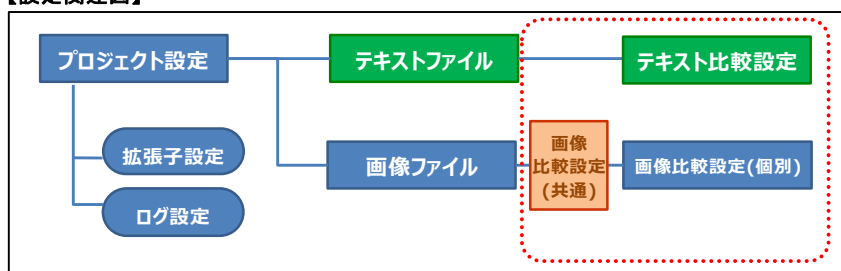


3	ファイル比較	
	① テキスト比較	比較元フォルダ、比較先フォルダを指定し、同一名称のファイルを名順に一括比較し、比較結果を Microsoft Excel に出力します。 ※フォルダ可変値項目階層数を指定する事により、フォルダ名が異なっても、同階層のサブフォルダ内で同名ファイルが存在する場合、比較対象とする事が可能です。
	② 画像比較	比較元フォルダ、比較先フォルダを指定し、同一名称のファイルを名順に一括比較し、比較結果を Microsoft Excel に出力します。 ※フォルダ可変値項目階層数を指定する事により、同階層のサブフォルダ内で同名ファイルが存在する場合、比較対象とする事が可能です。 ※比較設定で登録した「共通設定」「個別設定」の適用の有無を指定する事ができます。
4	エビデンス作成	
	① エビデンス作成	画像を格納したフォルダを指定し、エビデンスを作成します。 ※エビデンスの出力は名称順に Microsoft Excel に貼り付けを行います。
5	SAP テーブル/グリッドの自動スクロールキャプチャ	
	① テーブル/グリッドの自動スクロールキャプチャ	SAPGUI for Windows のテーブルまたはグリッドを、自動的に縦横スクロールし、画面キャプチャを取得します。 ※本機能はテスト自動化ツール(HP Unified Functional Testing 等)のスク립トに、CP-ACCEL が提供するメソッドを追加することで、実行可能です。

## 1. CP-ACCEL 比較設定概要

CP-ACCEL における設定は「プロジェクト」を単位として比較設定に関する登録を行います。

### 【設定関連図】



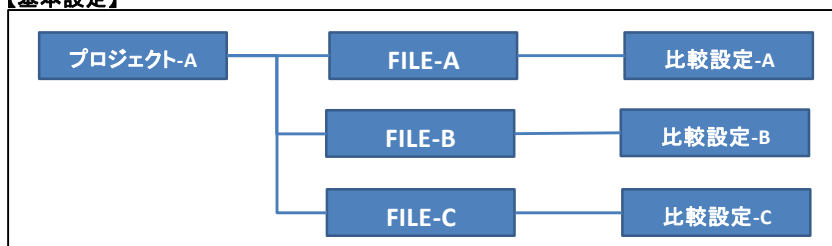
- 比較設定は「テキストファイル」「画像ファイル」の2つの区分に分けて登録を行います。  
個々の比較設定は基本的に指定フォルダ配下の比較元ファイル単位で「テキスト比較設定」及び「画像比較設定（個別）」の設定を行います。
- 画像ファイルのみ、すべての画像ファイルを対象とした「画像比較設定（共通）」を設定する事が可能です。またファイル単位で、共通設定の“適用／非適用”を指定する事も可能です。
- 比較設定を設定せずに実行する事も可能ですが、設定しない場合は、各ファイル全体が比較対象となります。

## 2. 比較設定の基本ルール

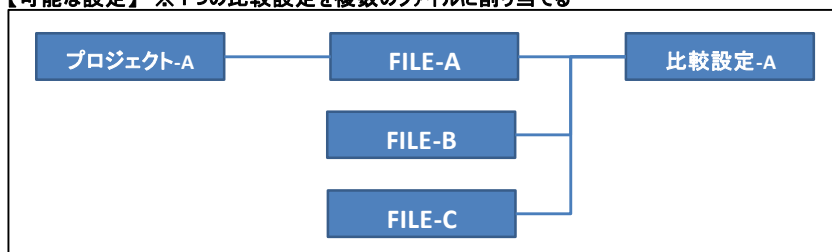
「テキスト比較設定」「画像比較設定(個別)」に関するルールとして、「プロジェクト」「ファイル」「比較設定」の依存関係があり、以下のとおりとなります。

- 1つの「プロジェクト」に対し、「ファイル:比較設定」=「1:1」を基本ルールとします。
- 個別の比較設定を複数のファイルに割り当てる事が可能です。
- 1つのファイルに対し、複数の個別の比較設定を同時に割り当てる事はできません。  
ただし比較設定を切り替えて比較実行することは可能です。
- 異なるプロジェクトの比較設定を適用することはできません。

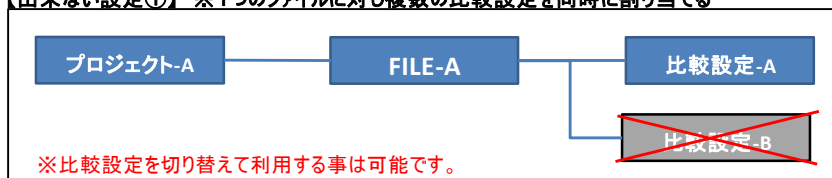
### 【基本設定】



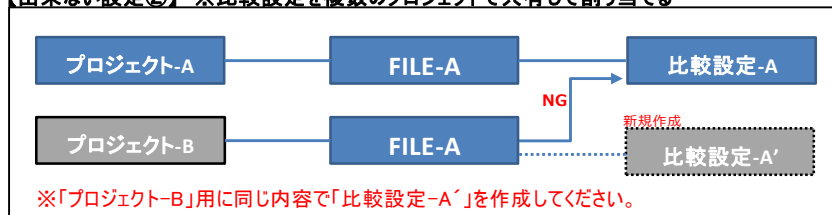
### 【可能な設定】 ※1つの比較設定を複数のファイルに割り当てる



### 【出来ない設定①】 ※1つのファイルに対し複数の比較設定を同時に割り当てる



### 【出来ない設定②】 ※比較設定を複数のプロジェクトで共有して割り当てる

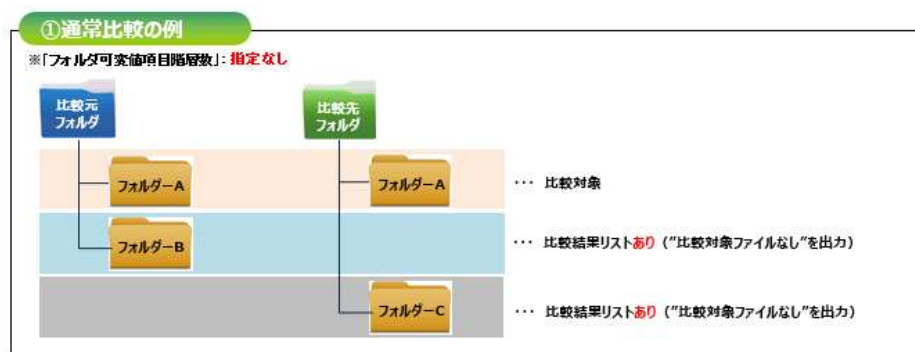


### 3. ファイル比較のルール(テキスト、画像)

「テキスト比較」「画像比較」に関するルールとして、フォルダ比較時の考え方とサブフォルダの比較の関係は以下のとおりとなります。

- 基本的な比較の動作として指定フォルダ配下の「同名ファイル」を比較します。
- サブフォルダが存在する場合は、「同一階層」の「同名フォルダ」のフォルダ配下の「同名ファイル」を比較します。
  - ただしサブフォルダに関しては、比較実行画面の「**フォルダ可変値項目階層数**」を指定する事で、指定した階層レベル内でのみ「サブフォルダ名」を無視して、サブフォルダ名称の昇順にフォルダ内の「同名ファイル」を比較します。
    - ※同一階層のサブフォルダ名称を昇順に並べ、上位からフォルダ単位に比較します。
    - ※同一階層内は、上位階層フォルダの単位に分けて、比較します。
    - ※同一階層のサブフォルダ数が比較元／比較先で一致しない場合、あぶれたフォルダのファイルは以下の内容で処理を行います。
      - 比較元フォルダ数が多い場合：比較結果リストに“比較対象ファイルなし”を出力。
      - 比較先フォルダ数が多い場合：比較対象外（比較結果リストに出力されません）

#### 【比較イメージ】



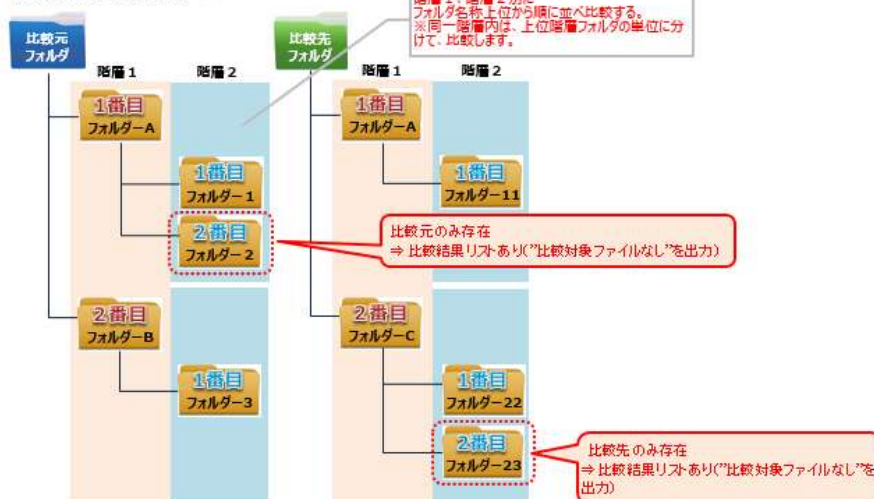
## ② サブフォルダ名が違う場合の比較例（階層 1）

※「フォルダ可変項目階層数」：1



## ③ サブフォルダ名が違う場合の比較例（階層 2）

※「フォルダ可変項目階層数」：2



<比較対象フォルダ>

【比較元】	【比較先】
階層1 (1番目)	vs 階層1 (1番目)
階層1 (2番目)	vs 階層1 (2番目)
上位階層 1番目内 階層2 (1番目)	vs 上位階層 1番目内 階層2 (1番目)
上位階層 1番目内 階層2 (2番目)	vs 上位階層 1番目内 なし
上位階層 2番目内 階層2 (1番目)	vs 上位階層 2番目内 階層2 (1番目)
上位階層 2番目内 なし	vs 上位階層 2番目内 階層2 (2番目)

## 4. SAP テーブル/グリッドスクロールキャプチャ機能の利用

本機能は CP-ACCEL をインストールした PC で、SAP GUI for Windows (以下 SAP GUI) のテーブルまたはグリッドを自動的に縦横スクロールし、画面キャプチャを取得します。

SAP GUI の操作を自動化するスクリプトに、本機能を実行する為のスクリプトを追加します。  
本ユーザガイドでは HP Unified Functional Testing (以下 UFT) を利用して、SAP GUI を自動化する場合のサンプルスクリプト (VBScript) を示します。

### 事前準備

本製品に付属されている「Z\_ScrollCapture.txt」を対象スクリプトに関連付けます。  
関連付け方法は、テスト自動化ツール/実装言語に応じて対応ください。

例 : UFT の TEST に関連付ける場合

- ① UFT メニュー ファイル -> 設定 を選択し、リソースを選択します。
  - ② ライブラリに「Z\_ScrollCapture.txt」を追加し、「OK」ボタンを押します。
- ※ 本作業は TEST 単位で実施する必要があります。

例 : UFT のビジネスコンポーネントに関連付ける場合

ビジネスコンポーネントに割り当てられているアプリケーション領域に  
「Z\_ScrollCapture.txt」を追加します。

- ① UFT から QC へ接続します。
- ② 対象のアプリケーション領域を開き、関数ライブラリを選択します。
- ③ 関数ライブラリに「Z\_ScrollCapture.txt」を追加し、保存します。

## 🚩 SAP テーブル/グリッドスクロールキャプチャ機能を実行スクリプトの追加

- ✦ QC-ACCEL (自動化開発支援ツール)を利用しない場合

SAP GUI の操作を自動化するスクリプトの適切な箇所に、以下のスクリプトを追加します。

**Call Z\_ScrollCapture( *ObjID*, *SaveFolder*, *FileName* )**

- ▶ **ObjID** : SAPGUI Scripting で対象のテーブルまたはグリッドを識別する ID
  - ✓ UFT を利用する場合は、GetROProperty メソッドで取得可能 (以下サンプルスクリプト参照)
  - ✓ UFT を利用しない場合は、後述の「ObjID の確認方法」を参照
- ▶ **SaveFolder** : 取得したキャプチャファイルを保存するフォルダの絶対パス
- ▶ **FileName** : 保存時のキャプチャファイル名。末尾に VnnnHmmm が付与します。
  - ✓ nnn : 縦(Vertical)スクロールの回数 (先頭ゼロ埋めの 3 桁)。
  - ✓ mmm : 横(Horizontal)スクロールの回数 (同上)。
 nnn/mmm の上限はいずれも 999 です。

### 取得されるキャプチャファイル名

<i>FileName_V001H001</i>	<i>FileName_V001H002</i>	...	<i>FileName_V001Hmmm</i>
<i>FileName_V002H001</i>	<i>FileName_V002H002</i>	...	<i>FileName_V002Hmmm</i>
...	...	...	...
<i>FileName_VnnnH001</i>	<i>FileName_VnnnH002</i>	...	<i>FileName_VnnnHmmm</i>

### サンプルスクリプト

以下は、SAP システムの購買発注登録画面における明細入力欄のスクロールキャプチャを実行するスクリプトの一部です。

※ スクリプト先頭の「SAPGuiSession("Session").SAPGuiWindow("購買発注登録")」を省略しています。

```
SAPGuiTable("SAPLMEGUITC_1211").Z_SetCellData 1,"品目",Parameter("ia_Table1_1")
SAPGuiTable("SAPLMEGUITC_1211").Z_SetCellData 1,"購買発注量",Parameter("ia_Table1_2")
SAPGuiTable("SAPLMEGUITC_1211").Z_SetCellData 1,"Plnt",Parameter("ia_Table1_3")
SAPGuiTable("SAPLMEGUITC_1211").Z_SetCellData 1,"保管場所",Parameter("ia_Table1_4")
SendKey ENTER
```

**Call Z\_ScrollCapture ( SAPGuiTable("SAPLMEGUITC\_1211").GetROProperty("ID"),  
"C:¥temp", "購買発注\_明細入力" )**

▶ テーブルまたはグリッドの ObjID の確認方法

- ① SAP GUI で提供されている SAP GUI Scripting 機能を有効化します。



- ② 自動化操作と同様の操作を行い、スクリプトを生成します。  
※ 同一テーブルに対する objID が、操作内容により異なる場合があります。必ず自動化操作と同様の操作を行ってください。
- ③ 生成されたスクリプトをエディタで開きます。  
テーブル/グリッドへの操作部分のスクリプトの以下の赤文字部分が objID です。

Session.findById("wnd[0]/usr/...../tblxxxxxxx/txtMEPO0121.....")  
※ tblxxxxxxx は対象テーブル/グリッドによって異なります。





◆ QC-ACCEL(自動化開発支援ツール)を利用する場合

スクリプト自動編集時に以下機能を利用することで、スクリプトを追加します。



サンプルスクリプト

以下は、購買発注登録画面における明細入力欄のスクロールキャプチャを実行するスクリプトの一部です。

スクリプト先頭の「SAPGuiSession(“Session”).SAPGuiWindow(“購買発注登録”)」を省略しています。

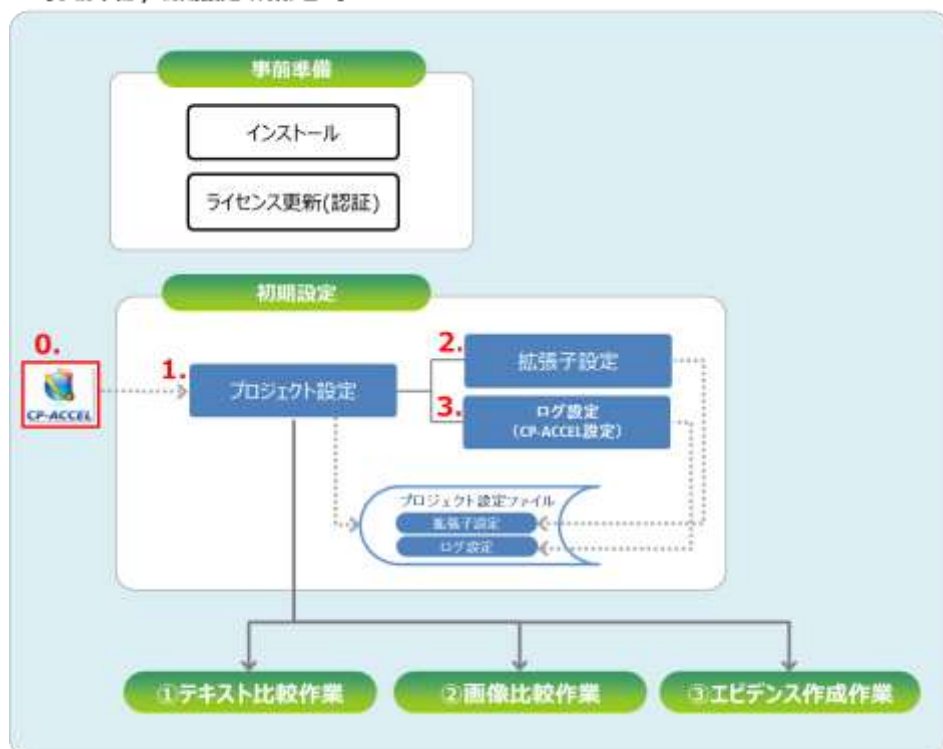
```
SAPGuiTable("SAPLMGUITC_1211").Z_SetCellData 1,"品目",Parameter("ia_Table1_1")
SAPGuiTable("SAPLMGUITC_1211").Z_SetCellData 1,"購買発注量",Parameter("ia_Table1_2")
SAPGuiTable("SAPLMGUITC_1211").Z_SetCellData 1,"Plnt",Parameter("ia_Table1_3")
SAPGuiTable("SAPLMGUITC_1211").Z_SetCellData 1,"保管場所",Parameter("ia_Table1_4")
SendKey ENTER
```

**SAPGuiTable("SAPLMGUITC\_1211").Z\_Capture "001","購買発注登録"**

## 6章. 機能と操作

### 作業フロー

【事前準備 / 初期設定 作業フロー】



- 🔧 「事前準備」作業は使用する PC に対して、3 章の作業を先に行ってください。
- 🔧 「プロジェクト設定」は基本的に比較フォルダ元単位で作成します。
- 🔧 「プロジェクト設定ファイル」に保存される設定は以下の内容が対象になります。
  - ✦ 「拡張子設定」
  - ✦ 「ログ設定」
  - ✦ 「テキスト比較設定」
  - ✦ 「画像比較設定(共通、個別)」
- 🔧 「拡張子設定」を設定しない場合は、デフォルトの拡張子設定「2 章 2.比較ファイル形式要件」が適用されます。
- 🔧 「ログ設定」を設定しない場合は、ログ出力レベルは「ERROR」レベルが適用されます。

【作業フロー】

① テキスト比較作業



② 画像比較作業



③ エビデンス作成作業



## 0. アプリケーションの起動

✚ はじめに CP-ACCEL を起動します。

◆ 「Windows メニュー」 - 「SUMITEM」 - 「 SUMITEM\_CP-ACCEL」を実行します

または

“C:¥[CP-ACCEL インストールフォルダ]¥CPA¥CP-ACCEL.exe”を実行します

◆ 「プロジェクト選択」画面が表示されますので新規プロジェクト登録または、既存プロジェクトの選択を行います。

## 1. 共通設定「プロジェクト設定」

### 機能

プロジェクト設定画面を表示し、設定情報パス指定と、既存プロジェクトの選択または新規プロジェクトの設定を行います。

### ポイント

- ✚ CP-ACCEL を使い始める際、最初に本作業を実施します。
- ✚ 1 プロジェクト単位で比較設定を複数登録する事が可能です。
- ✚ 比較設定は、プロジェクトの単位でファイル名をキー項目とします。
  - ◆ 同一名称のファイルが存在する場合、プロジェクトを分ければ比較設定の区別が可能です。
- ✚ 作業対象のプロジェクトを切り替える際は、本機能にて操作を行います。
  - ◆ 新規プロジェクトを保存するフォルダが存在しない場合は、先に保存フォルダの作成を行ってください。（設定情報パスにて指定します）  
※フォルダは実行 PC から参照可能であれば、ローカルディスク、ファイルサーバ等、制限はありません
  - ◆ プロジェクトは、新規プロジェクトで入力した「プロジェクト名.cpaproj」で作成されます。
  - ◆ プロジェクトの指定は、「既存プロジェクト」「新規プロジェクト」のいずれかのみ指定可能となっております。

## 画面項目

### 【プロジェクト選択】画面

プロジェクト選択

① 設定情報パス

② 既存プロジェクト

③ 新規プロジェクト

④ 実行

⑤ キャンセル

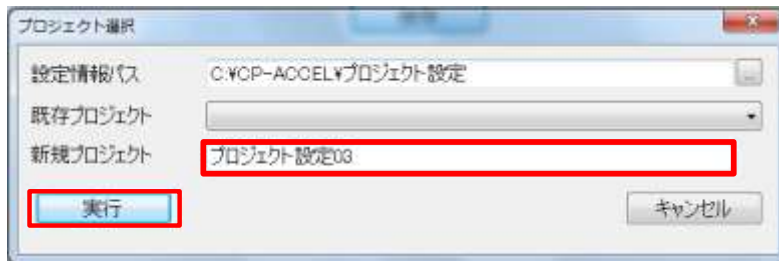
No.	項目	属性	説明
①	設定情報パス	入力	新規プロジェクトを保存するフォルダ、または既存プロジェクトの保存先フォルダを指定します。
②	既存プロジェクト	選択	設定情報パスに指定されたフォルダ内に存在する、プロジェクトがプルダウン表示されます。
③	新規プロジェクト	入力	新規のプロジェクト名を指定します。
④	実行	ボタン	登録処理を実行します。
⑤	キャンセル	ボタン	入力内容を取り消し、画面を閉じます。

## 操 作

### ① 新規プロジェクトを登録します。

- ▶ 「新規プロジェクト」登録をする場合は、必ず「既存プロジェクト」をブランク(空欄)状態にしてください。(既存プロジェクトを選択中は新規登録ができません)
- ▶ 任意のプロジェクト名を入力後、実行ボタンをクリックし登録を行います。

#### 【プロジェクト選択】画面




保存先フォルダにプロジェクトが作成されました。



### ② 既存プロジェクトを選択します。

- ▶ 既存プロジェクトがある場合は CP-ACCEL 起動時に、最後に保存されたプロジェクトが初期表示されます。
- ▶ 別の既存プロジェクトへ変更する場合は、「設定情報パス」をプロジェクトが保存されているフォルダへ変更し、「既存プロジェクト」のプルダウンより選択してください。
- ▶ 「既存プロジェクト」のプルダウンより選択後、実行ボタンをクリックします。

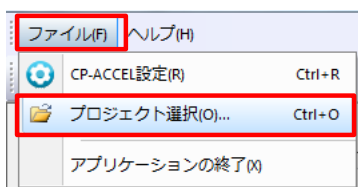
CP-ACCELがすでに起動中の場合は以下の2通りのいずれかより「プロジェクト選択」画面を起動します。

- ・左上ツールバーの「」アイコン - 「プロジェクト選択」を選択。

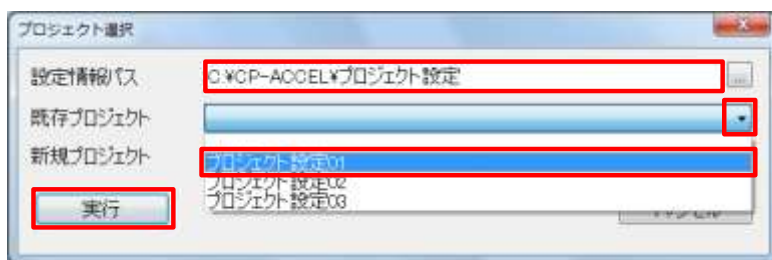


または

- ・メニューバーの「ファイル(F)」 - 「プロジェクト選択(o)」を選択。



#### 【プロジェクト選択】画面



## 2. 共通設定「拡張子設定」

### 機能

比較対象となるテキストファイルの拡張子、及び画像ファイルの拡張子の設定を登録します。

### ポイント

✚ CP-ACCEL を使い始める際、最初に本作業を実施します。

- ✦ 新規プロジェクトの場合は「2 章 2.比較ファイル形式要件」に記載のあるファイル形式がデフォルト表示されます。
- ✦ 既存プロジェクトより呼び出した場合は、登録済の拡張子設定が表示されます。

✚ 比較対象とする拡張子を指定します。

- ✦ 比較フォルダ内で、比較対象の拡張子絞り込みを行いたい場合、一覧に表示されている比較対象外の拡張子を削除し、対象の拡張子のみ残してください。  
※比較フォルダ内に対象のファイルしか存在しない場合は削除不要です。
- ✦ 設定済の拡張子一覧に対象の拡張子が存在しない場合は、追加で設定を行います。
- ◆ 「2 章 2.比較ファイル形式要件」に記載のあるファイル形式以外の拡張子を指定した場合は、比較が正常に動作しません。ただしファイルの実体が「2 章 2.比較ファイル形式要件」のファイル形式であれば、拡張子の名称に別の拡張子名がついている場合でも比較は可能です。
- ✦ テキストファイル比較でファイル名に拡張子が付いてないファイルも比較可能です。  
※「2 章 2.比較ファイル形式要件」のテキストファイルの形式に限ります

✚ 「エビデンス作成」機能で作成対象となる画像ファイルの拡張子指定は、こちらの「拡張子設定」とは連動しません。

- ◆ エビデンス作成はフォルダ内のすべてのファイルが対象となります。



## 画面項目

### 【拡張子設定】画面



No.	項目	属性	説明
テキストファイル			
①	テキストファイル拡張子	入力	追加登録するテキストファイルの拡張子を入力します。(半角英数小文字)
②	設定済テキストファイル拡張子一覧	表示	設定済のテキストファイル拡張子一覧が表示されます。
③	拡張子なし	チェックBOX	拡張子がないファイルを対象とする場合にチェックします。
④	追加	ボタン	No①で入力した拡張子を設定する場合に実行します。
⑤	削除	ボタン	設定済の拡張子を削除する場合に実行します。
画像ファイル			
⑥	画像ファイル拡張子	入力	追加登録する画像ファイルの拡張子を入力します。(半角英字)

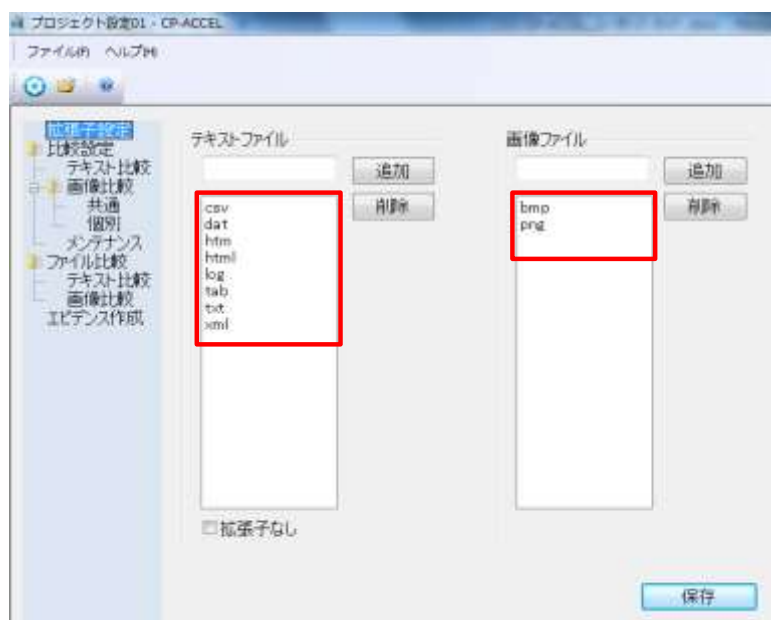
⑦	設定済画像ファイル拡張子一覧	表示	設定済の画像ファイル拡張子一覧が表示されます。
⑧	追加	ボタン	No⑥で入力した拡張子を設定する場合に実行します。
⑨	削除	ボタン	設定済の拡張子を削除する場合に実行します。
⑩	保存	ボタン	設定した拡張子の保存を実行します。

## 操 作

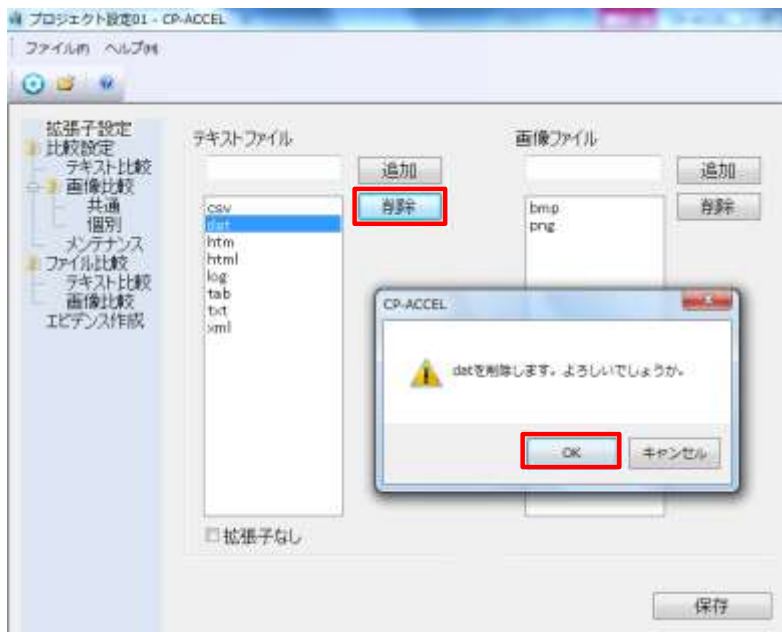
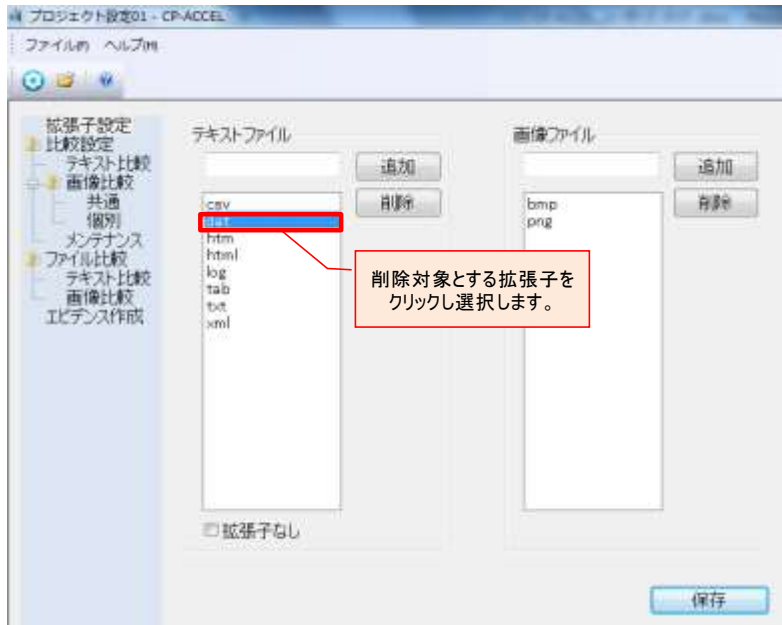
### ① 比較対象とする拡張子を指定します(対象外拡張子の削除)

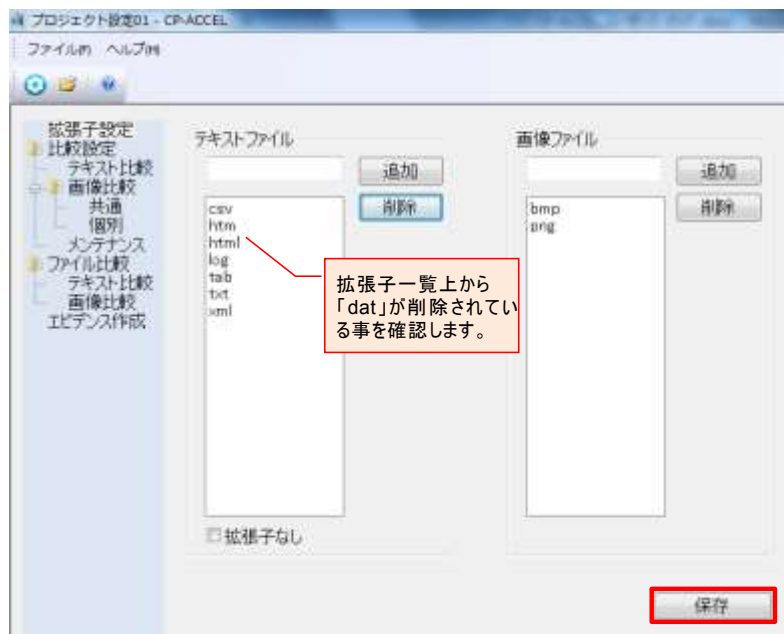
- ▶ 対象外の拡張子を登録済の拡張子一覧よりクリックし選択します。  
 テキストファイル：左側「設定済テキストファイル拡張子一覧」より選択  
 画像ファイル：右側「設定済画像ファイル拡張子一覧」より選択
- ▶ 指定後右側の削除ボタンをクリックします。
- ▶ 確認画面が表示されますので、問題がなければそのまま「OK」し削除を実行します。  
 ※同じ要領で対象外の拡張子を繰り返し削除します。
- ▶ テキストファイル、画像ファイルの拡張子の指定がすべて完了しましたら、「保存」ボタンをクリックし、拡張子設定を保存します。

### 【拡張子設定】画面



【拡張子設定】画面 ※例） dat 形式の拡張子を削除する場合

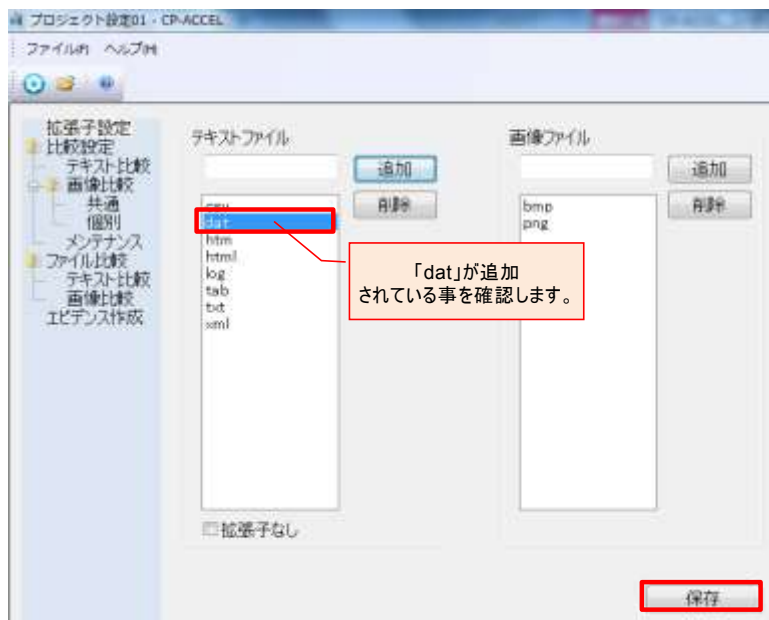
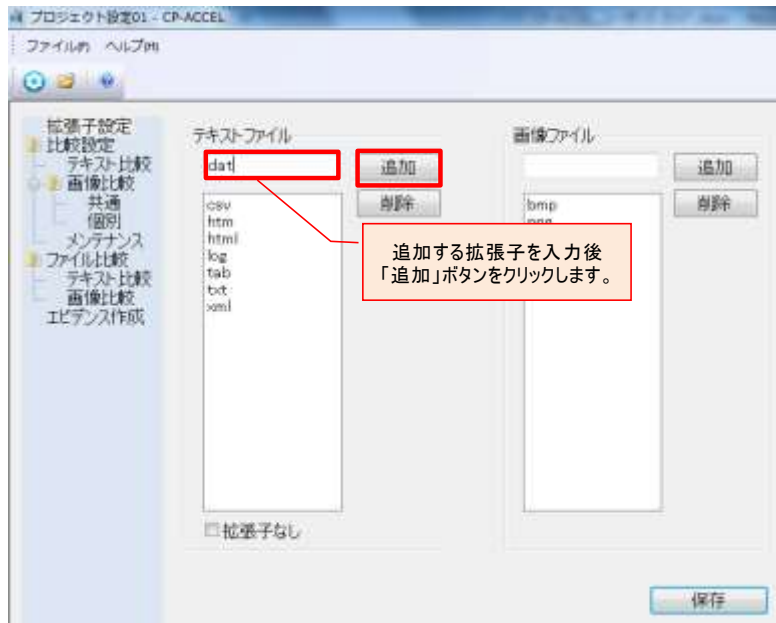




## ② 比較対象とする拡張子を追加設定します。

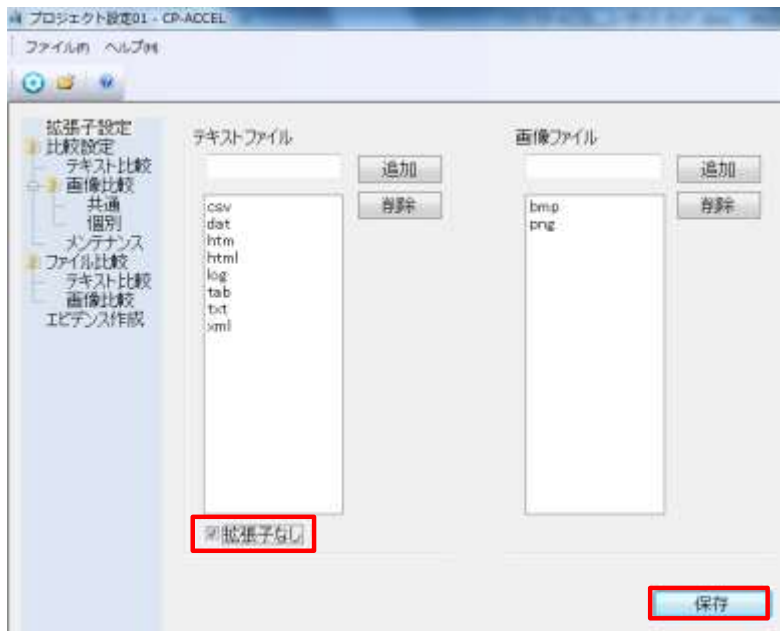
- ✦ 比較対象の拡張子が一覧上にない場合、追加したい拡張子を入力します。  
 テキストファイル：左側「テキストファイル拡張子」へ入力  
 画像ファイル：右側「画像ファイル拡張子」へ入力  
 ▶ 拡張子の記載は半角英数小文字(ドット「.」を除く)で入力
- ✦ 入力後、右側の「追加」ボタンをクリックします。
- ✦ 拡張子一覧へ登録した拡張子が追加されていれば登録完了です。
- ✦ 同じ要領でテキストファイルまたは、画像ファイルの拡張子を繰り返し登録します。
- ✦ テキストファイル、画像ファイルの拡張子の追加がすべて完了したら、「保存」ボタンをクリックし、拡張子設定を保存します。

【拡張子設定】画面 ※例） dat 形式の拡張子を追加する場合



### ③ 「拡張子なし」のファイルを比較対象とする。※テキストファイル比較限定

- ◆ テキストファイル比較で対象フォルダ内のファイル名に拡張子が付いていないファイルも比較対象としたい場合、「拡張子なし」をチェックします。
- ◆ 「保存」ボタンをクリックし、拡張子設定を保存します。



### 3. ログ出力レベル(CP-ACCEL 設定)の設定

#### 機能

ログの出力レベルを登録します。

#### ポイント

##### ✚ 実行時のログ出力に関して、ログ出力レベルの設定を施します。

- ✚ ログ出力レベルのデフォルト値は「ERROR」レベルです

ERROR : ERROR 時のみログを出力します。

FLOW : 実行単位で正常時のログ及び、ERROR ログを出力します。

- ✚ 設定したログ出力レベルで実行ログを以下のフォルダ配下にログを出力します。

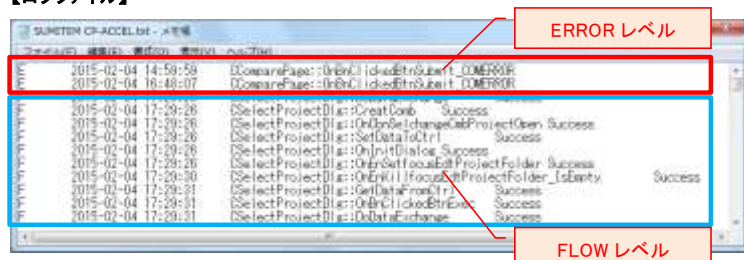
##### ▶ Windows7 の場合

※以下のフォルダは通常“隠しフォルダ”となっています。Windows のエクスプローラーの設定「フォルダーと検索とオプション」よりフォルダオプションの設定で「ファイルとフォルダーの表示」を隠しファイルを表示するへ変更する必要があります。

ログ出力パス: %Users%”**ログインユーザ ID**”%AppData%Local%SUMITEM%CP-ACCEL%log%

ログファイル名 : 「SUMITEM CP-ACCEL.txt」

#### 【ログファイル】



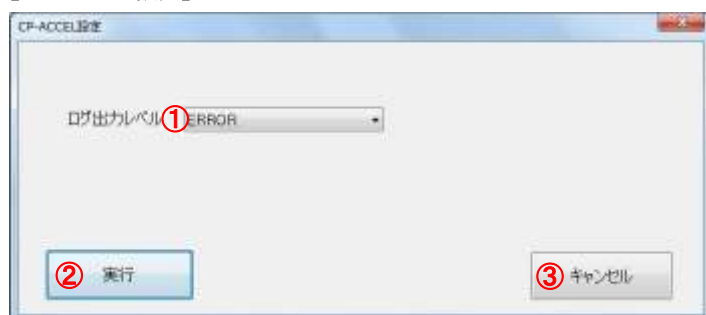
#### 注意!!

- ✓ ログ出力レベルを「FLOW」にした場合、ログを大量に出力し、ログファイルが肥大化する場合がありますので、必要に応じて「FLOW」の設定を行ってください。

※ログファイルは削除しても問題ありません。(CP-ACCEL 非起動時)

## 画面項目


### 【CP-ACCEL 設定】画面



No.	項目	属性	説明
①	ログ出力レベル	必須	ログの出力レベルを指定します。 「ERROR」「FLOW」の2種類より選択します。
②	実行	ボタン	設定の保存を実行します。
③	キャンセル	ボタン	設定を保存せずに、登録をキャンセルします。

## 操 作

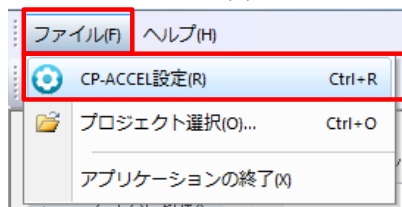
### ① CP-ACCEL 設定画面の起動は以下の2通りのいずれかより起動します。

左上ツールバーの「」アイコン - 「CP-ACCEL 設定」を選択。



または

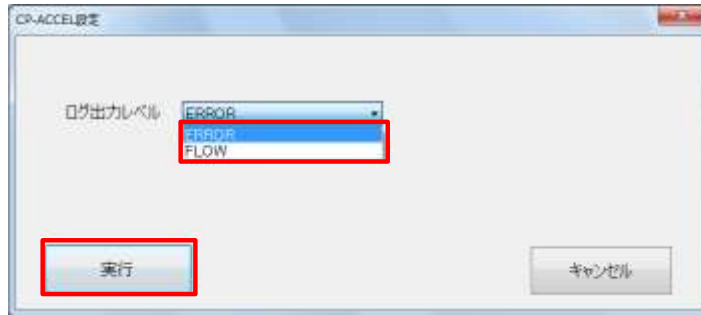
メニューバーの「ファイル(F)」 - 「CP-ACCEL 設定(R)」を選択。





- ② CP-ACCEL 設定画面にて「ログ出力レベル」を選択します。  
出力レベルをプルダウンリストより選択し、「実行」ボタンをクリックし登録します。

【CP-ACCEL 設定】画面



## 4. 比較設定「テキスト比較」

### 機能

テキストファイルに対し、ファイル単位で比較対象/対象外の設定を登録します。

### ポイント

- ✦ 比較設定は比較元フォルダ内にあるファイル名に対して登録を行います。
- ✦ 比較設定を行わない場合は、テキスト内の全データが比較対象となります。
- ✦ テキスト内の項目の区切り判別は以下の2種類から設定可能です。
  - ✦ 「固定長」：先頭から開始位置、文字数を指定して項目を区切ります。
  - ✦ 「CSV」：カンマ区切り、TAB区切り、セミコロン、スペース、指定文字より項目を区切ります。
- ✦ 比較対象外の設定は正規表現を用いて設定可能です
  - ✦ 「位置指定」：行の開始文字、文字数に該当する値に対して条件設定を行う。
  - ✦ 「列指定」：指定列の項目に対して条件設定を行う。
  - ✦ 「全て」：行の全体の値に対して条件設定を行う。

### 注意!!

- ✓ 同一ファイル名がサブフォルダに複数存在する場合、同一ファイル名への比較設定は複数行わないでください。  
※サブフォルダ含めて、一意のファイル名での比較設定となる為、最後に保存された比較設定が優先されます。


## 画面項目

### 【比較設定 - テキスト比較】画面

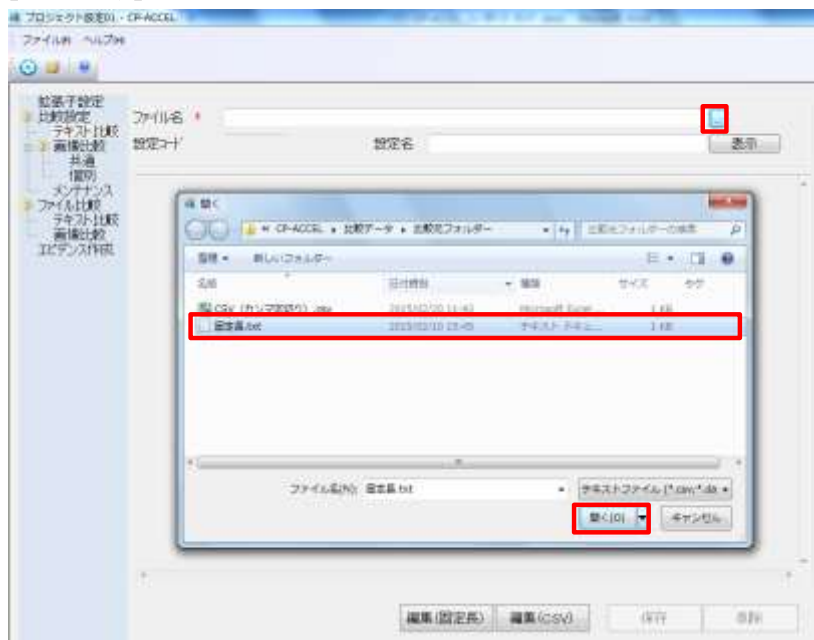
No.	項目	属性	説明
①	ファイル名	必須	テキストファイル比較設定を行うファイル名を指定します。
②	設定コード	表示	テキスト比較設定行と識別用に自動採番されます ※「TXT + 通番 5 桁」(TXT00001～TXT99999)
③	設定名	入力	設定するファイルの補足コメントを登録します(任意) ※入力した内容は「メンテナンス」機能の一覧に表示されます。(設定コード+設定名)
④	表示	ボタン	No①で指定したファイルの内容を表示します。
⑤	編集(固定長)	ボタン	比較設定を固定長で行う場合は、こちらのボタンより登録の続きに進みます。
⑥	編集(CSV)	ボタン	比較設定をカンマ区切り、TAB 区切り、セミicolon、スペース、指定文字で行う場合は、こちらのボタンより登録の続きに進みます。
⑦	保存	ボタン	編集(固定長)、編集(CSV)で設定した内容を保存します。
⑧	削除	ボタン	No①のファイル名で保存された比較設定を削除します。

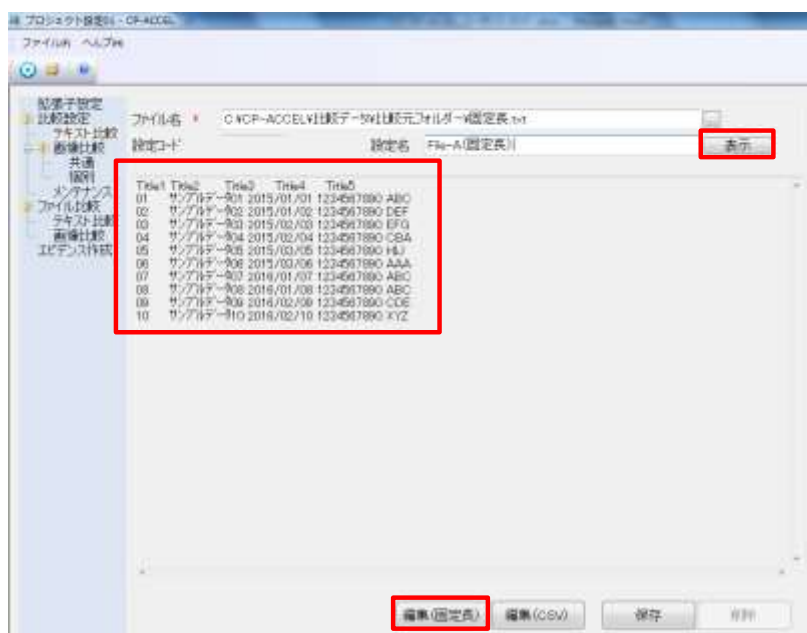
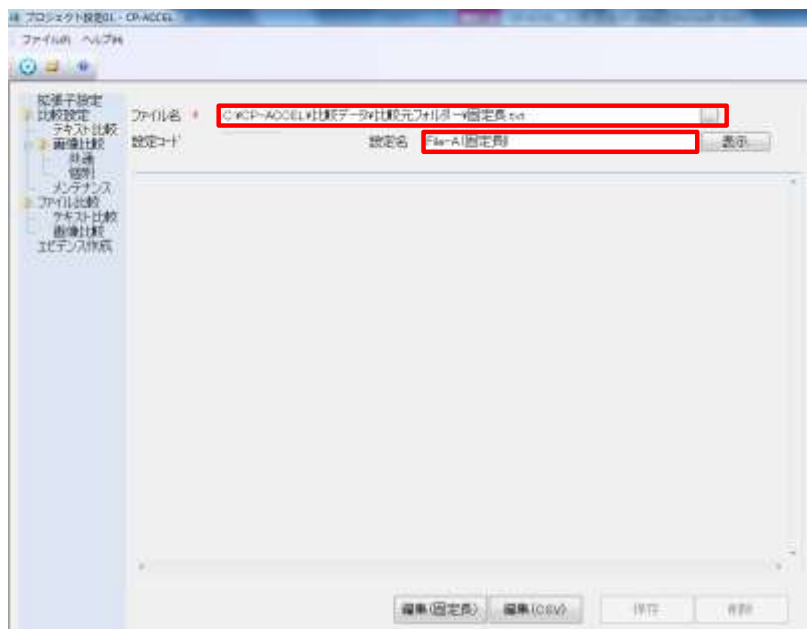
## 操 作

### ③ 比較設定を行うファイルを指定します。

- 「ファイル名」項目、右側の「」ボタンをクリックし、「開く」画面が起動されますので対象のファイルを選択後、「開く」をクリックしてください。  
※「テキスト比較」画面の「ファイル名」にフォルダパスが自動入力されます
- 「設定名」に登録する設定のコメントを入力します。(任意)  
※【例】: “File-A(固定長)”、“対象外(xx項目=123 除く)”
- 「表示」ボタンをクリックすると、テキストファイル内容が画面に表示され、確認する事ができます。
- テキストファイルの形式に合わせて、「編集(固定長)」「編集(CSV)」の設定を行います。

#### 【テキスト比較】画面





「編集(固定長)」ボタンをクリックし、「固定長ファイル列設定」画面へ進みます。

#### ④「固定長ファイル列設定」を行います。

- ◆ 固定長のレイアウトに合わせて、項目の「ファイル列設定」(区切り設定)を行います。
  - ▶ 「ファイル列設定」は除外対象設定で行う項目のみでも問題ありません。  
除外設定しない項目は項目を集約して簡略することも可能です。
- ◆ 「ファイル列設定」で使用する「開始位置」「文字数」は文字単位で行います。  
※半角、全角を1文字としてカウントします。  
※半角、全角が混在するファイルの場合、データの内容によってうまく列設定ができない場合があります。
- ◆ 「見出し行」「サンプル行」の指定は「ファイル列設定」時に補助的に利用します。  
除外対象としての設定ではない為、ご注意ください。

#### 【固定長ファイル列設定】画面

固定長ファイル列設定

ファイル名 ① C:\WCP-ACCEL\比較データ\比較元フォルダ\固定長.txt

見出し行 ②      サンプル行 ③

NO.	開始位置	文字数	サンプル行
④	⑤ 1	⑥ 47	⑦ Title1 Title2 Title

⑧ 挿入    ⑨ 削除

⑩ 表示

⑪

⑫ 戻る    ⑬ 次へ >    ⑭ キャンセル

No.	項目	属性	説明
1	ファイル名	表示	設定対象のファイル名を表示します。
2	見出し行	入力	見出し行がデータ内に存在する場合、対象となる行を指定します。
3	サンプル行	入力	開始位置/文字数で切り出し、サンプル表示する行を指定します。指定された行のイメージは【ファイル列設定】サンプル項目へ表示されます。
【ファイル列設定】			
4	NO	表示	ファイル列設定する項目の通番を自動表示します。 データの左項目から昇順で採番されます(No1～)
5	開始位置	表示	ファイル列設定する項目の開始位置を表示します。 ※行の先頭から開始する文字数での表記となります。 ※設定を追加すると、自動で次の項目の開始位置を表示します。
6	文字数	入力	データ項目の区切り文字数を指定します。
7	サンプル項目	表示	No3 で指定したサンプル行のデータを開始位置/文字数で切り出し、サンプルとして項目データが表示されます。
8	挿入	ボタン	【ファイル列設定】内に指定した行の前に行を挿入します。 ※挿入したい行をクリック後、「挿入」ボタンをクリックしてください。
9	削除	ボタン	【ファイル列設定】内の指定した行を削除します。
10	表示	ボタン	【ファイル列設定】を適用したファイル内容を下の表に表示します。「サンプル項目」の内容も更新表示されます。
11	ファイル内容	表示	【ファイル列設定】で指定した内容が表示されます。 ※初期表示は1項目内にすべてのデータが表示されます。
12	戻る	表示	※この画面では使用しません。
13	次へ	ボタン	正規表現の設定へ進みます。
14	キャンセル	ボタン	設定した内容をキャンセルし、前画面に戻ります。

## 【固定長ファイル列設定】画面

固定長ファイル列設定

ファイル名: C:\KCP-AGCEL\K社試験データ\試験元フォルダー\固定長.txt

見出し行:  サンプル行:

NO	開始位置	文字数	サンプル項目
1	1	<input type="text" value="1"/>	Title1
2	8	<input type="text" value="17"/>	Title2

挿入

表示

1項目

境界線をドラッグして右にスライドすると列幅を広げることができます。

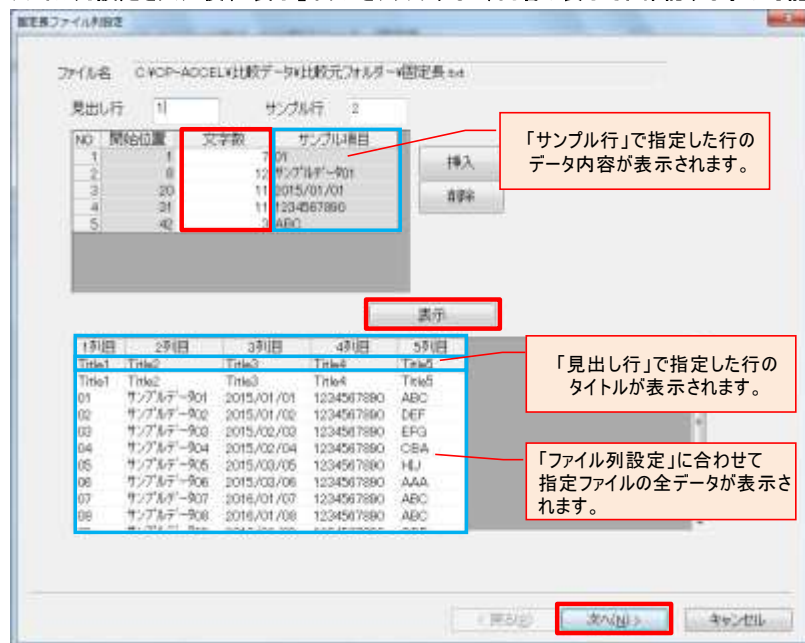
1項目

Title1	Title2	Title3	Title4	Title5
01	サンプル	2015/01/01	1234567890	ABC
02	サンプル	2015/01/02	1234567890	DEF
03	サンプル	2015/02/03	1234567890	EFG
04	サンプル	2015/02/04	1234567890	GHA
05	サンプル	2015/03/05	1234567890	HIJ
06	サンプル	2015/03/06	1234567890	AAA
07	サンプル	2016/01/07	1234567890	ABC
08	サンプル	2016/01/08	1234567890	ABC

戻る/リセット 次へ/終了 キャンセル



ファイル列設定を入力後、「表示」ボタンをクリックすると、内容が表示され確認する事が可能です。



「ファイル列設定」に問題がなければ「次へ(N)」ボタンをクリックし、⑤「除外対象設定」画面へ進みます。

## ⑤ 「除外対象設定」を行います。

- 固定長のレイアウトに合わせて、項目の「ファイル列設定」(区切り設定)を行います。

## 【除外対象設定】画面

① ファイル名 QWOP-ACCEL4比較データ4比較元ファイル4固定長.txt

② 行の指定(正規表現) 位置・条件設定 設定メモ

③ 追加  
④ 編集  
⑤ 削除

⑥ 表示

1列目	2列目	3列目	4列目	5列目
Title1	Title2	Title3	Title4	Title5
Title1	Title2	Title3	Title4	Title5
01	サンプルデータ01	2015/01/01	1234567890	ABC
02	サンプルデータ02	2015/01/02	1234567890	DEF
03	サンプルデータ03	2015/02/03	1234567890	EFG
04	サンプルデータ04	2015/02/04	1234567890	CBA
05	サンプルデータ05	2015/03/05	1234567890	HJI
06	サンプルデータ06	2015/03/06	1234567890	AAA
07	サンプルデータ07	2016/01/07	1234567890	ABC
08	サンプルデータ08	2016/01/08	1234567890	ABC
09	サンプルデータ09	2016/02/09	1234567890	CDE
10	サンプルデータ10	2016/02/10	1234567890	XYZ

⑧ 戻る ⑨ 完了 ⑩ キャンセル

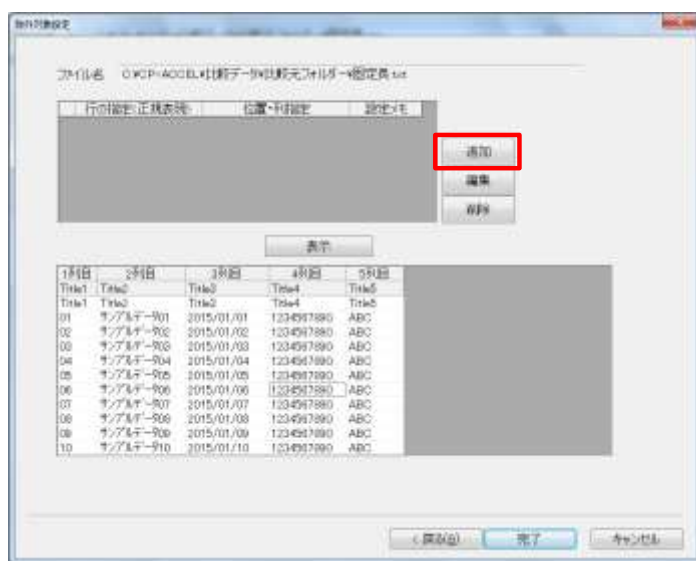
No.	項目	属性	説明
1	ファイル名	表示	設定対象のファイル名を表示します。
2	除外対象条件一覧	表示	設定した除外対象条件を一覧表示します。
3	追加	ボタン	除外対象の条件設定画面を表示します。 ※挿入したい行をクリック後、「挿入」ボタンをクリックしてください。
4	編集	ボタン	【除外対象条件一覧】より選択した条件を変更します。
5	削除	ボタン	【除外対象条件一覧】より選択した条件を削除します。
6	表示	ボタン	【ファイル列設定】を適用したファイル内容を下の表に表示します。「サンプル項目」の内容も更新表示されます。
7	ファイル内容	ボタン	【ファイル列設定】で指定した内容が表示されます。 ※初期表示は1項目内にすべてのデータが表示されます。
8	戻る	表示	※この画面では使用しません。
9	完了	ボタン	正規表現の設定へ進みます。
10	キャンセル	ボタン	設定した内容をキャンセルし、前画面に戻ります。

(ア) 個別の除外対象設定を行います。

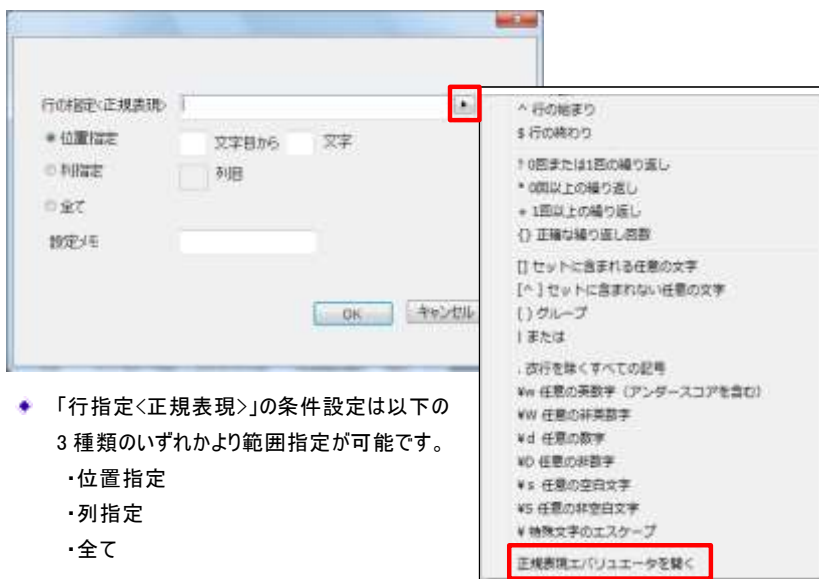
- ✦ 正規表現を用い除外対象条件を設定します。

「追加」のボタンをクリックし、個別の条件設定画面を起動します。

#### 【除外対象設定】画面



#### 【除外対象 条件設定】画面



- ✦ 「行指定<正規表現>」の条件設定は以下の3種類のいずれかより範囲指定が可能です。

- ・位置指定
- ・列指定
- ・全て

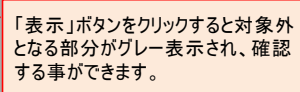
- 「正規表現」入力の補助機能として「正規表現エディタ」機能を活用すると、条件の動作を確認しながら設定が可能です。

No.	項目	属性	説明
1	行指定<正規表現>	入力	正規表現で条件指定を行います。 ▼ をクリックすると入力補助リストが表示されます。
2	位置指定	ラジオボタン 入力	行の先頭からの開始位置、文字数の範囲を指定します。
3	列指定	ラジオボタン 入力	条件を対象とする列番号を指定します。 ※左から1列目2列名・・・n列 となり 【除外対象設定】画面の「ファイル内容」欄に表示されています。
4	全て	ラジオボタン	行全てのデータが条件対象となります。
5	設定メモ	入力	設定条件のコメントを入力します。 ※【除外対象設定】画面の「除外対象条件一覧」内に表示されます。

条件を入力します。（例：5列目にAの文字が含まれる場合比較対象外とする）  
入力後「OK」ボタンをクリックし「除外対象設定」画面に戻ります。

The screenshot shows a dialog box titled '除外対象設定' (Exclude Target Setting). It has several input fields and radio buttons. The '行の指定<正規表現>' (Row Specification <Regular Expression>) field contains '[A]'. Below it, there are three radio buttons: '位置指定' (Position Specification), '列指定' (Column Specification), and '全て' (All). The '列指定' radio button is selected. To its right, there is a field for '5 列目' (5th Column). Below the radio buttons, there is a '設定メモ' (Setting Memo) field containing 'Aを含む' (Contains A). At the bottom right, there are two buttons: 'OK' and 'キャンセル' (Cancel). The 'OK' button is highlighted with a red box.

正しく設定が反映されていることを確認します。  
「表示」ボタンをクリックすると対象外の部分がグレー表示されます。  
設定内容に問題がなければ「完了」ボタンをクリックし、「テキスト比較」画面にもどります。



ファイル名: C:\CP-ACCEL\比較データ\比較元ファイル\設定表.txt


設定コード: TX700002 設定名: File-A (設定表)

表示

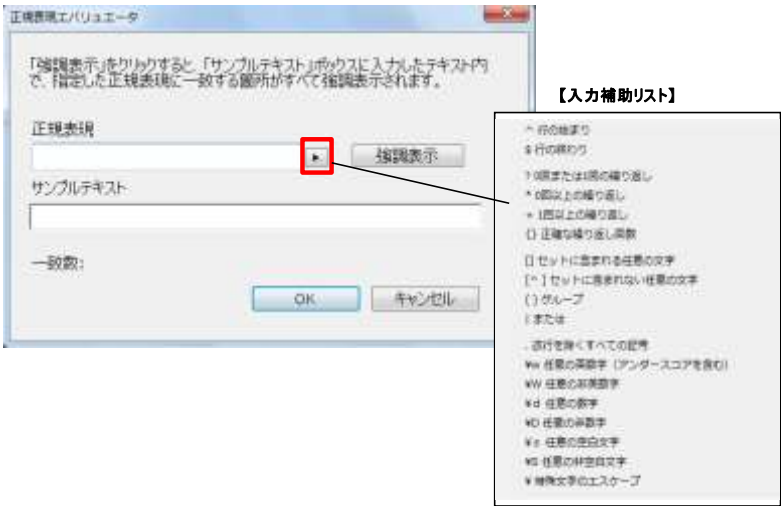
Time1	Time2	Time3	Time4	Time5
01	サンプル-R01	2015/01/01	1234567890	ABC
02	サンプル-R02	2015/01/02	1234567890	DEF
03	サンプル-R03	2015/02/03	1234567890	EFQ
04	サンプル-R04	2015/02/04	1234567890	GHI
05	サンプル-R05	2015/03/05	1234567890	HJL
06	サンプル-R06	2015/03/06	1234567890	AAA
07	サンプル-R07	2016/03/07	1234567890	ABC
08	サンプル-R08	2016/03/08	1234567890	ABC
09	サンプル-R09	2016/03/09	1234567890	CDE
10	サンプル-R10	2016/02/10	1234567890	XYZ


編集 (設定表) 編集 (CSV) 保存 印刷

■ 補助機能「正規表現エバリュエータ」

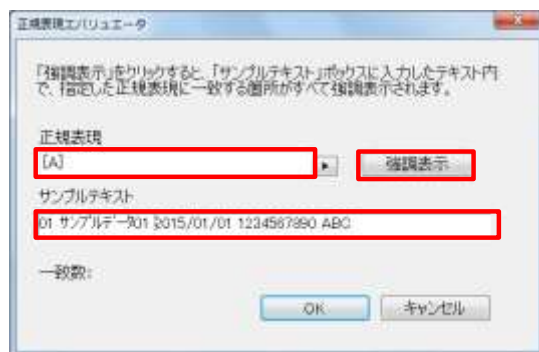
- ▶ 「条件設定」画面の「行指定<正規表現>」項目の  ボタンをクリックし入力補助リストの最下部「正規表現エバリュエータを開く」を選択します。

【正規表現エバリュエータ】画面

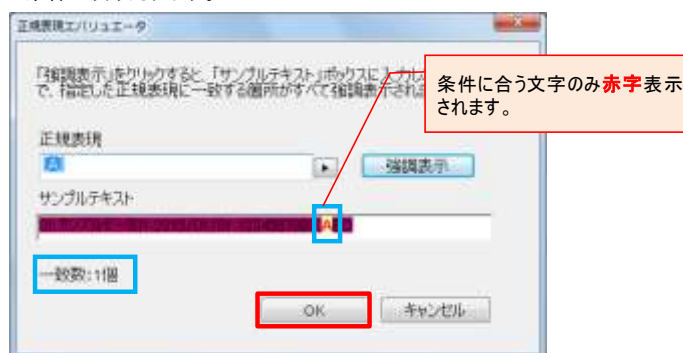


No.	項目	属性	説明
1	正規表現	入力	正規表現で条件指定を行います。  ボタンをクリックすると入力補助リストが表示されます。
2	強調表示	ボタン	「サンプルテキスト」のテキストに対し条件に合うものを赤字で強調表示します。
3	サンプルテキスト	入力	正規表現の条件を確認するテキストを入力します。

「正規表現」「サンプルテキスト」を入力し「強調表示」ボタンをクリックします。



「OK」ボタンをクリックすると、「条件設定」画面の「行の指定<正規表現>」項目へ条件が反映されます。



「OK」ボタンをクリックすると、「除外対象設定」画面へ戻り条件が反映されます。



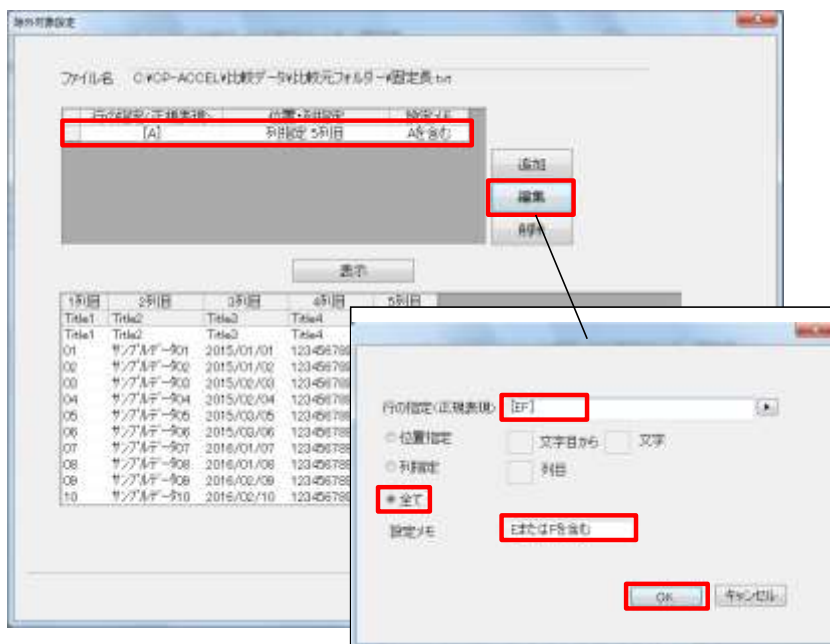
(イ) 設定済の「除外対象条件」を編集します。

- ✦ 変更したい条件設定を【除外対象条件一覧】より対象行をクリックし選択します。
- ✦ 「編集」ボタンをクリックし、「条件設定」が表示されてますので、条件を変更します。

(例: 行全てのデータの内、E または F の文字を含む行を比較対象外とする)

変更後「OK」ボタンをクリックし、「除外対象設定」画面へ戻ります。

#### 【除外対象設定】画面

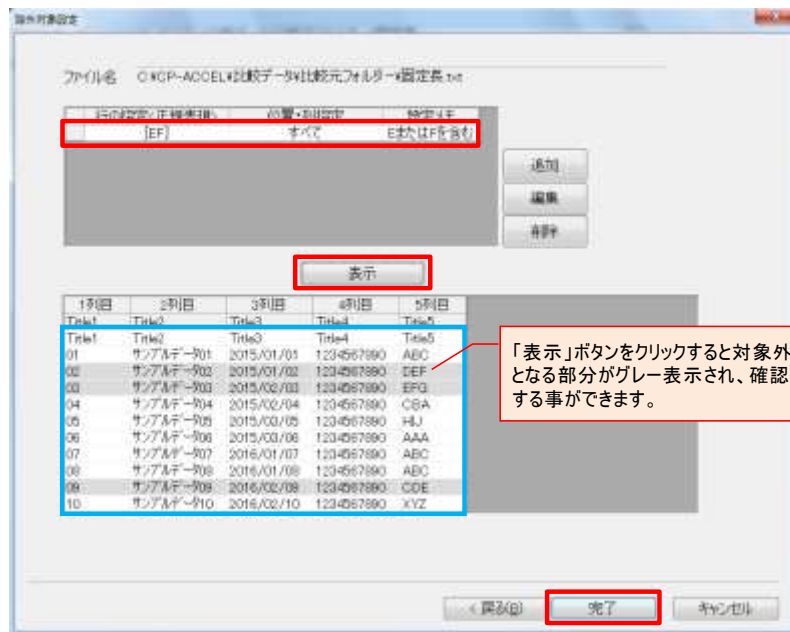


正しく設定が反映されていることを確認します。

「表示」ボタンをクリックすると対象外の部分がグレー表示されます。

設定内容に問題がなければ「完了」ボタンをクリックし、「テキスト比較」画面にもどります。



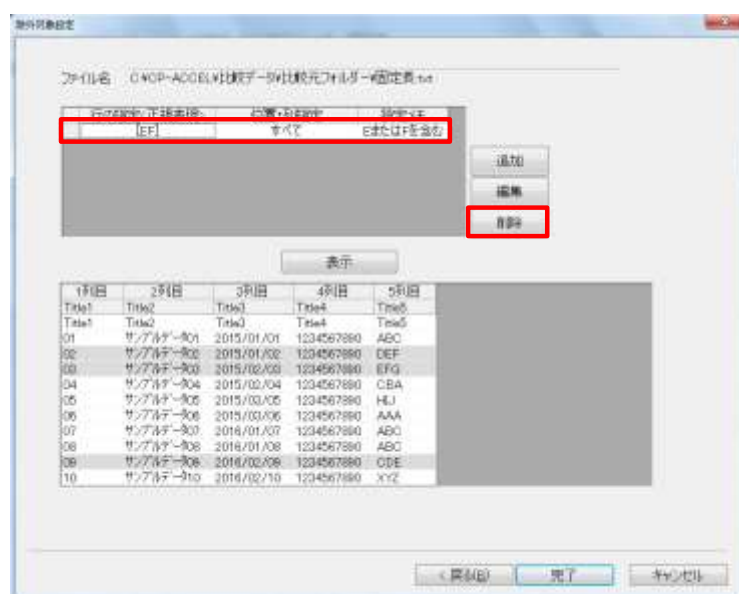


「テキスト比較」画面に戻り「保存」ボタンをクリックし、変更設定を完了します。

(ウ) 設定済の「除外対象条件」を削除します。

- ✦ 変更したい条件設定を【除外対象条件一覧】より対象行をクリックし選択します。
- ✦ 「削除」ボタンをクリックし、削除確認画面が表示されます。

#### 【除外対象設定】画面



削除対象行を確認し、問題がなければ「OK」ボタンをクリックし削除します。



設定内容に問題がなければ「完了」ボタンをクリックし、「テキスト比較」画面にもどります。



## 5. 比較設定「画像比較設定（共通）」

### 機能

対象の全ての画像ファイルに対し、比較対象外範囲/比較対象範囲の設定を登録します。

### ポイント

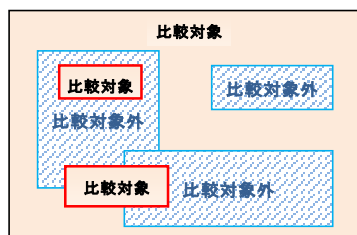
- ✦ 画像比較設定（共通）は比較元フォルダ内にあるすべての画像ファイルに対して、共通設定として適用する事が可能です。ただし共通設定は「メンテナンス」機能または、画像比較設定（個別）で各画像ファイルへ「共通設定適用」を指定した場合、有効となります。

※初期値：全ファイル適用

- ✦ 画像比較設定（共通）を行わない場合は、画像全体が比較対象となります。
- ✦ 画像ファイルの範囲指定は、画像内を矩形形式で以下の２種類設定を組み合わせで行います。

デフォルトは画像全体が比較対象範囲となりますので、「比較対象外範囲設定」「比較対象範囲設定」の順で設定を行います。

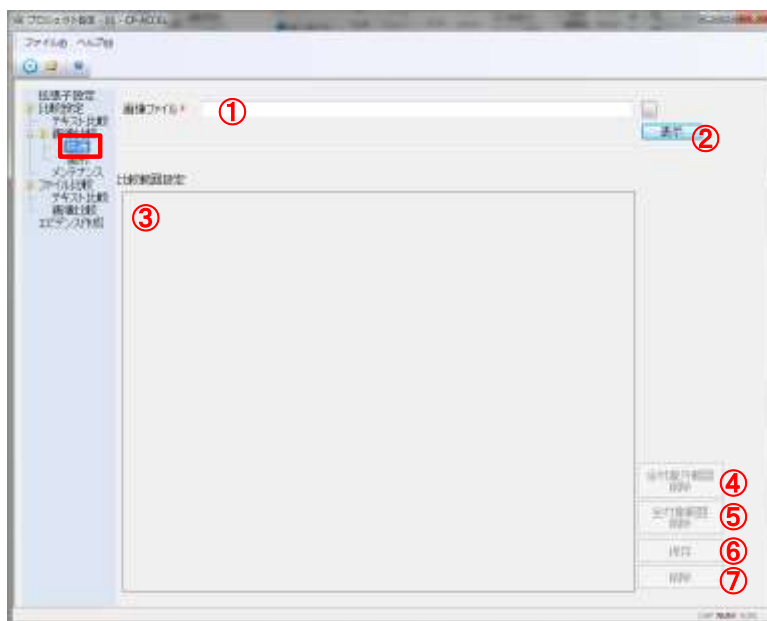
- ✦ 「比較対象外範囲設定」：画像内の任意の領域を囲み、比較対象外とします。
  - ▶ 画像内で複数の比較対象外範囲の設定が可能です。
  - ▶ 比較対象外範囲が重なる設定や、重ならない設定も可能です。
- ✦ 「比較対象範囲設定」：画像内の「対象外範囲設定」領域で、比較対象とする任意の領域を囲み、比較対象とします。
  - ▶ 1つの「比較対象外範囲設定」の一部を比較対象とする事や、複数の「対象外範囲設定」にまたがって、比較対象とすることが可能です。



## 注意!!

- ✓ 共通設定は、基本的に画像ファイルが同解像度、同サイズ(縦・横サイズ)の画像ファイルに対して行うことを推奨します。  
※画像の左上を基点として領域指定(ピクセル単位)を行っている為、同じ画面であっても解像度が違う場合は、比較対象範囲が変わりますのでご注意ください。
- ✓ 共通設定で設定した画像ファイルと解像度、サイズ(縦・横サイズ)が違う場合は、メンテナンス画面または、画像設定(個別)で、「共通設定適用」のチェックボックスを解除し、「画像設定(個別)」で対象範囲の設定を行ってください。


## 画面項目



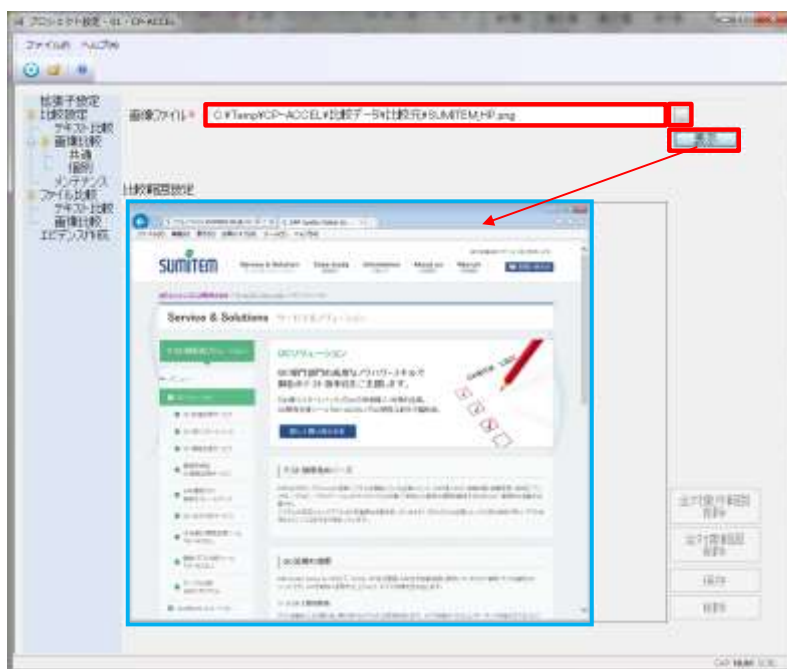
No.	項目	属性	説明
①	画像ファイル	必須	範囲設定する画像ファイルを指定します。
②	表示	ボタン	No①で指定した「画像ファイル」を No③「比較範囲設定」欄に画像イメージを表示します。
③	比較範囲設定	表示	画像イメージを表示します。
④	全対象外範囲削除	ボタン	「比較対象外範囲設定」をすべて解除します。
⑤	全対象範囲解除	ボタン	「比較対象範囲設定」をすべて解除します。
⑥	保存	ボタン	比較設定（共通）を保存します。
⑦	削除	ボタン	比較設定（共通）を削除します。

## 操 作


### ① 設定する画像ファイルの取り込み

- 「画像ファイル」項目、右側の「」ボタンをクリックし、「開く」画面が起動されますので対象の画像ファイルを選択後、「開く」をクリックしてください。
- ※「画像ファイル名」の入力欄にファイルパスが自動入力されます
- 「表示」ボタンをクリックし、対象の画像ファイルを表示します。

### 【画像比較(共通)】画面

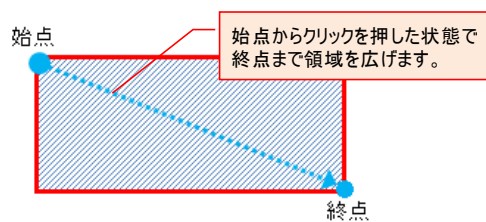



## ② 「比較対象外範囲」の設定

- 「比較範囲設定」の表示域内で右ボタンをクリックし、コンテキストメニューから「比較対象外範囲の追加」を選択します。選択するとマウスカーソルが  となります。




- 比較対象外範囲の始点となる左上をクリックし、そのままクリックを押した状態で範囲の終了となる終点まで範囲を広げ、クリックを放した部分で範囲が確定します。(網掛け部分が設定範囲)



- 指定した比較対象外範囲の移動、サイズ変更により調整を行う場合、比較対象外範囲の指定終了後、マウスカーソルが  の状態で、以下操作を行います。



**【サイズ変更】**  
マウスカーソルを  にあわせクリックし、任意の場所でクリックを放します。


**【移動】**  
比較対象外範囲内の任意の場所でクリックし、クリックを押した状態で移動し、移動先でクリックを放します。



### 【 比較対象外範囲の設定例 】



### ③ 「比較対象範囲」の設定

- 「比較範囲設定」の表示域内で右ボタンをクリックし、コンテキストメニューから「比較対象範囲の追加」を選択します。選択するとマウスカーソルが  となります。



- 比較対象範囲の始点となる左上をクリックし、そのままクリックを押した状態で範囲の終了となる終点まで範囲を広げ、クリックを放した部分で範囲が確定します。  
※操作方法是「対象外範囲設定」と同様です。
- 指定した比較対象範囲設定の移動、サイズ変更により調整を行います。  
※操作方法是「対象外範囲設定」と同様です。

#### 【 比較対象範囲の設定例 】

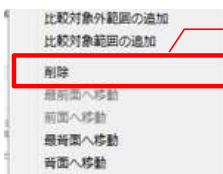


例) 画面全体を一度対象外に設定し、ページ内部分を比較対象に範囲設定します。  
※結果的に②と同一ような設定になります。

#### ④ 「比較対象外範囲」「比較対象範囲」の削除

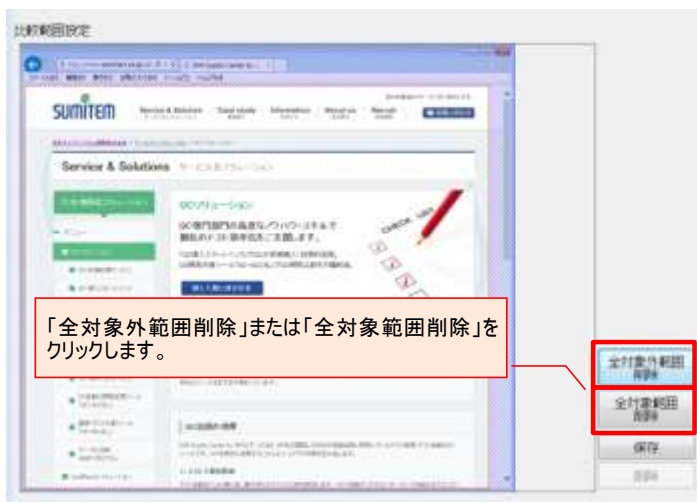
- ✦ 必要に応じて設定した比較対象外範囲設定または比較対象範囲を削除します。

- ▶ 比較対象外範囲または比較対象範囲を指定して削除する場合



削除対象の比較対象外範囲または比較対象範囲上にマウスカーソルを移動し、右クリックし、コンテキストメニューから「削除」を選択します。

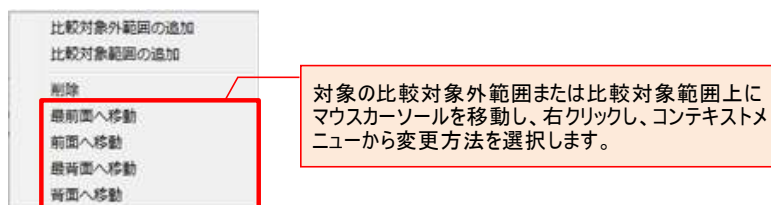
- ▶ 全ての対象外範囲のまたは全ての対象範囲を削除する場合



※「全対象外範囲削除」または「全対象範囲削除」をクリック後、削除を確認するポップアップが表示されます。

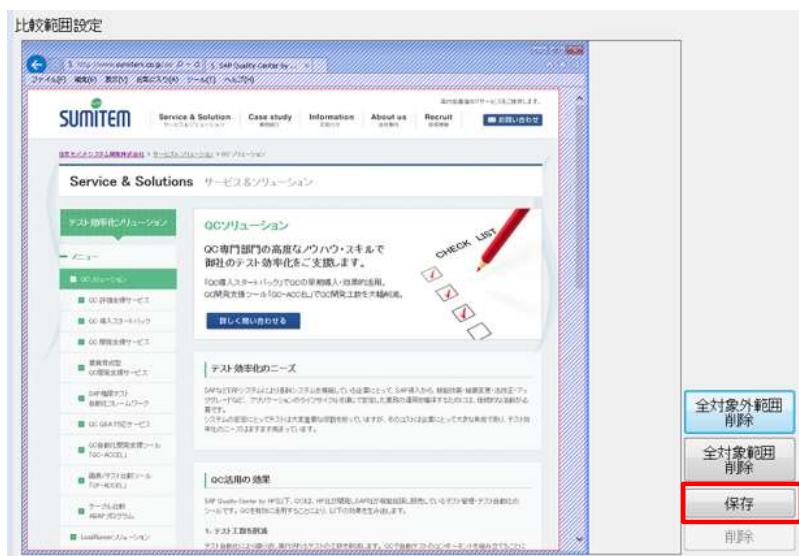
## ⑤ 「比較対象外範囲」「比較対象範囲」の重なり順序の変更

- ✦ 必要に応じて比較対象外範囲または比較対象範囲の重なり順序を変更します。



## ⑥ 画像比較(共通)設定の保存

- ✦ 「保存」ボタンをクリックし、画像比較(共通)設定を保存します。
- ✦ 「保存」ボタンせずに CP-ACCEL を終了した場合、設定保存の確認のポップアップが表示されます。



## ⑦ 画像比較(共通)の比較対象外範囲/比較対象範囲の設定削除

- ✦ 「画像比較(共通)」画面で任意の画像ファイルを開きます。
- ✦ 「削除」ボタンをクリックすると確認画面が表示されます。
- ✦ 確認画面の「OK」ボタンをクリックし、削除を実行します。



## 6. 比較設定「画像比較設定(個別)」

### 機能

画像ファイルに対し、ファイル単位で比較対象外範囲/比較対象範囲の設定を個別に登録します。

### ポイント

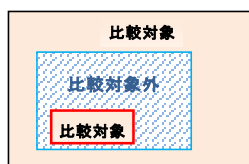
- 画像比較設定(個別)は比較元フォルダ内にある画像ファイル名に対して、個別登録されます。サブフォルダ内に同名の画像ファイルが存在する場合は同じ比較設定内容が適用されます。

※同名であっても拡張子が違う場合は別ファイルとして取り扱います。

- 個別設定は、1つの画像ファイルに対し1つの個別設定のみ設定する事が可能です。
- 個別設定した範囲設定を、別名の画像ファイルに適用する場合、「メンテナンス」機能で、1つの個別設定を複数の画像ファイルへ割り当てます。
- 画像比較設定(個別)を行わない場合は、画像比較設定(共通)の比較対象外範囲を除く、画像全体が比較対象となります。
- 画像比較設定(個別)、画像比較設定(共通)の両方を設定、適用とした場合、両方の比較対象外範囲/比較対象範囲の設定が適用されます。

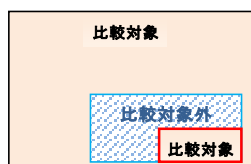
※同領域に共通・個別でそれぞれ別の設定を行った場合は**個別設定が優先**されます。

【共通設定】



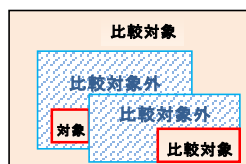
+

【個別設定】



=

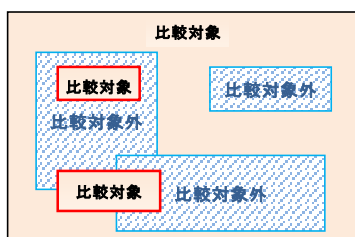
【共通+個別設定】



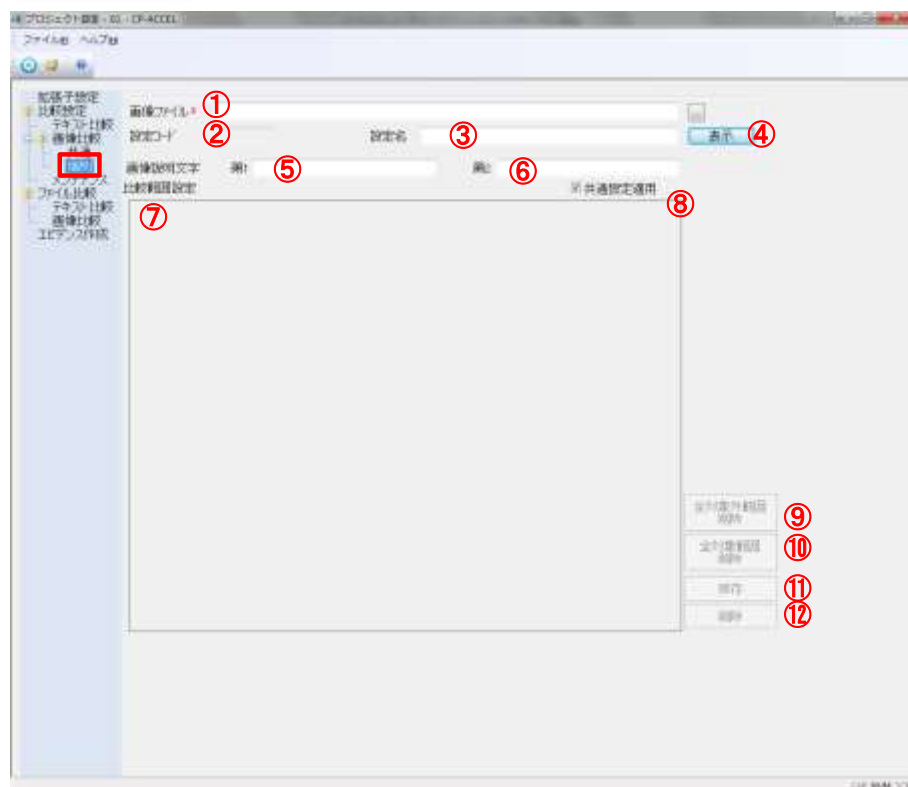
✚ 画像ファイルの範囲指定は、画像内を矩形形式で以下の 2 種類設定を組み合わせで行います。

デフォルトは画像全体が比較対象範囲となりますので、「比較対象外範囲設定」「比較対象範囲設定」の順で設定を行います。

- ✦ 「比較対象外範囲設定」：画像内の任意の領域を囲み、比較対象外とします。
  - ▶ 画像内で複数の比較対象外範囲の設定が可能です。
  - ▶ 比較対象外範囲が重なる設定や、重ならない設定も可能です。
- ✦ 「比較対象範囲設定」：画像内の「対象外範囲設定」領域で、比較対象とする任意の領域を囲み、比較対象とします。
  - ▶ 1つの「比較対象外範囲設定」の一部を比較対象とする事や、複数の「対象外範囲設定」にまたがって、比較対象とすることが可能です。



## 画面項目




No.	項目	属性	説明
①	画像ファイル	必須	範囲設定する画像ファイルを指定します。
②	設定コード	表示	画像比較設定(個別)の保存を行うと識別用に自動採番されます。 ※「IMG + 通番 5桁」(IMG00001~IMG99999)
③	設定名	入力	設定する画像ファイルの補足コメントを登録します。 ※入力した内容は「メンテナンス」機能の一覧に表示されます。(設定コード+設定名)
④	表示	ボタン	No①で指定した「画像ファイル」を No③「比較範囲設定」欄に画像イメージを表示します。
⑤	画像説明文字(第1)	入力	画像ファイルの説明コメントの第1レベルを入力します。 例)機能名、画面名、処理内容 等



⑥	画像説明文字(第 2)	入力	画像ファイルの説明コメントの第 2 レベルを入力します。 例)比較設定内容、補足説明 等
⑦	比較範囲設定	表示	画像イメージを表示します。
⑧	共通設定適用	チェック ボックス	No①で指定した画像ファイルに「画像比較設定(共通)」で指定した比較範囲を複合して適用する場合、チェックをつけます。※チェックをつけた場合、No⑦の画像イメージへ共通設定の比較範囲が重なって表示されます。
⑨	全対象外範囲削除	ボタン	「比較対象外範囲」をすべて削除します。 ※共通設定の比較対象外範囲は削除されません。
⑩	全対象範囲削除	ボタン	「比較対象範囲」をすべて解除します。 ※共通設定の比較対象範囲設定は削除されません。
⑪	保存	ボタン	No①の画像ファイルの比較設定(個別)を保存します。
⑫	削除	ボタン	No①の画像ファイルの比較設定(個別)を削除します。

## 操 作

### ① 個別設定する画像ファイルを取り込みます。

- 「画像ファイル」項目、右側の「」ボタンをクリックし、「開く」画面が起動されますので対象の画像ファイルを選択後、「開く」をクリックしてください。
- ※「画像ファイル名」の入力欄にファイルパスが自動入力されます
- 「表示」ボタンをクリックし、対象の画像ファイルを表示します。
- 「画像比較設定（共通）」を事前に登録している場合は、表示した画像イメージに「共通設定」の対象外範囲/対象範囲の枠が表示されます。
- ※「画像比較設定（共通）」登録の有/無にかかわらず、「共通設定適用」は初期値「チェックあり」で表示されます。

### 【画像比較（個別）】画面



## ② 「設定名」「画像説明文字(第1、第2)」を入力します。

- 「設定名」には比較設定内容が識別できる補足コメントを入力します。

画像ファイル名で識別できない場合は“機能名”、“画面名”、“処理内容”等、又は比較範囲の設定条件等を簡略に入れると分かりやすくなります。

※「設定名」は「メンテナンス」機能の一覧上の項目「比較設定」に表示されます。

- 「画像説明文字(第1、第2)」は上記「設定名」同様に画像を説明する補足コメントを入力します。(第1、第2の使い分けは自由に行えます)

入力した内容は「ファイル比較(画像比較)」の結果出力のリスト、および「エビデンス作成」の出力ファイルに記載されます。


※「メンテナンス」機能の一覧の以下の項目へ表示され、一覧上でも直接編集可能です。

・「画像説明文字(第1)」→「エビデンス埋込文字第1」

・「画像説明文字(第2)」→「エビデンス埋込文字第2」

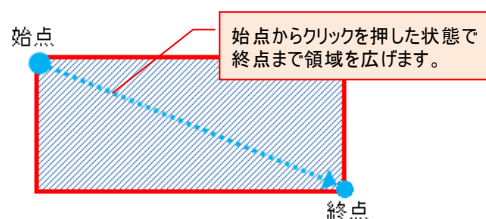
### 【画像比較(個別)】画面


### ③ 「比較対象外範囲」の設定

- 「比較範囲設定」の表示域内で右ボタンをクリックし、コンテキストメニューから「比較対象外範囲の追加」を選択します。選択するとマウスカーソルが  となります。



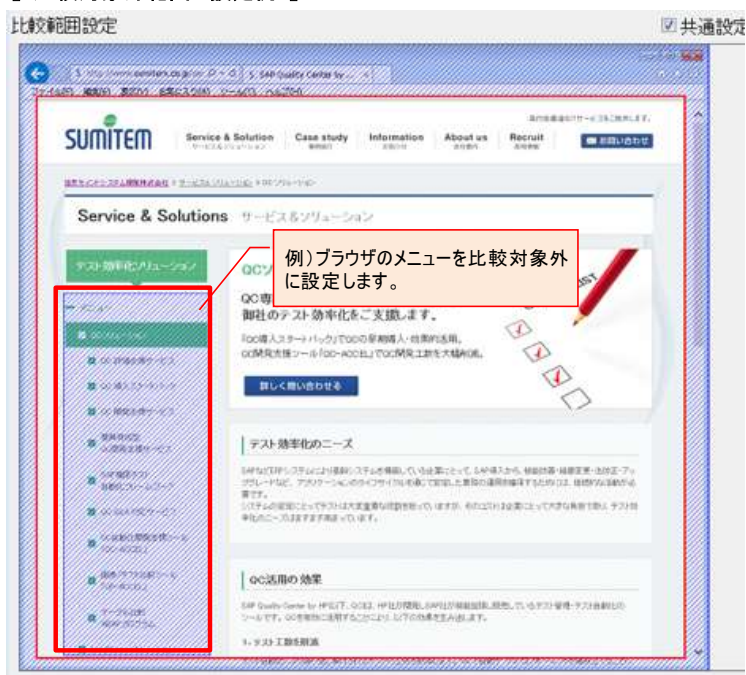
- 比較対象外範囲の始点となる左上をクリックし、そのままクリックを押した状態で範囲の終了となる終点まで範囲を広げ、クリックを放した部分で範囲が確定します。(網掛け部分が設定範囲)




- 指定した比較対象外範囲の移動、サイズ変更により調整を行う場合、比較対象外範囲の指定終了後、マウスカーソルが  の状態で、以下操作を行います。



【 比較対象外範囲の設定例 】



#### ④ 「比較対象範囲」の設定

- 「比較範囲設定」の表示域内で右ボタンをクリックし、コンテキストメニューから「比較対象範囲の追加」を選択します。選択するとマウスカーソルが  となります。



- 比較対象範囲の始点となる左上をクリックし、そのままクリックを押した状態で範囲の終了となる終点まで範囲を広げ、クリックを放した部分で範囲が確定します。  
※操作方法は「対象外範囲設定」と同様です。
- 指定した比較対象範囲設定の移動、サイズ変更により調整を行います。  
※操作方法は「対象外範囲設定」と同様です。

#### 【 比較対象範囲の設定例 】



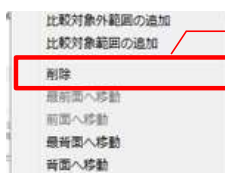
例) 画面全体を一度対象外に設定し、ページ内部分を比較対象に範囲設定します。  
※結果的に②と同一ような設定になります。

例) 一部のメニューを比較対象に設定します。

### ⑤ 「比較対象外範囲」「比較対象範囲」を削除します。

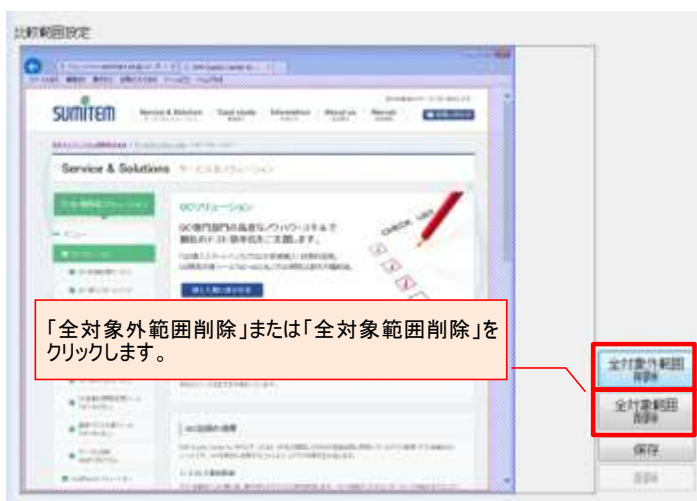
- ✦ 必要に応じて設定した比較対象外範囲設定または比較対象範囲を削除します。

- ▶ 比較対象外範囲または比較対象範囲を指定して削除する場合



削除対象の比較対象外範囲または比較対象範囲上にマウスカーソルを移動し、右クリックし、コンテキストメニューから「削除」を選択します。

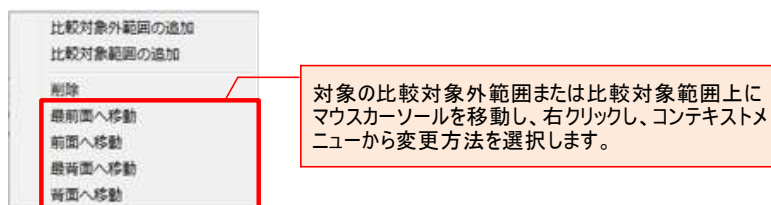
- ▶ 全ての対象外範囲のまたは全ての対象範囲を削除する場合



※「全対象外範囲削除」または「全対象範囲削除」をクリック後、削除を確認するポップアップが表示されます。

## ⑥ 「比較対象外範囲」「比較対象範囲」の重なり順序の変更

- 必要に応じて比較対象外範囲または比較対象範囲の重なり順序を変更します。



## ⑦ 画像比較(共通)設定の保存

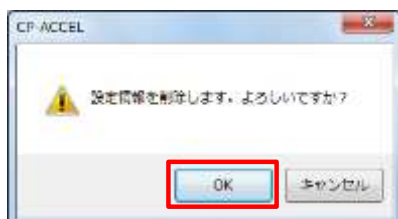
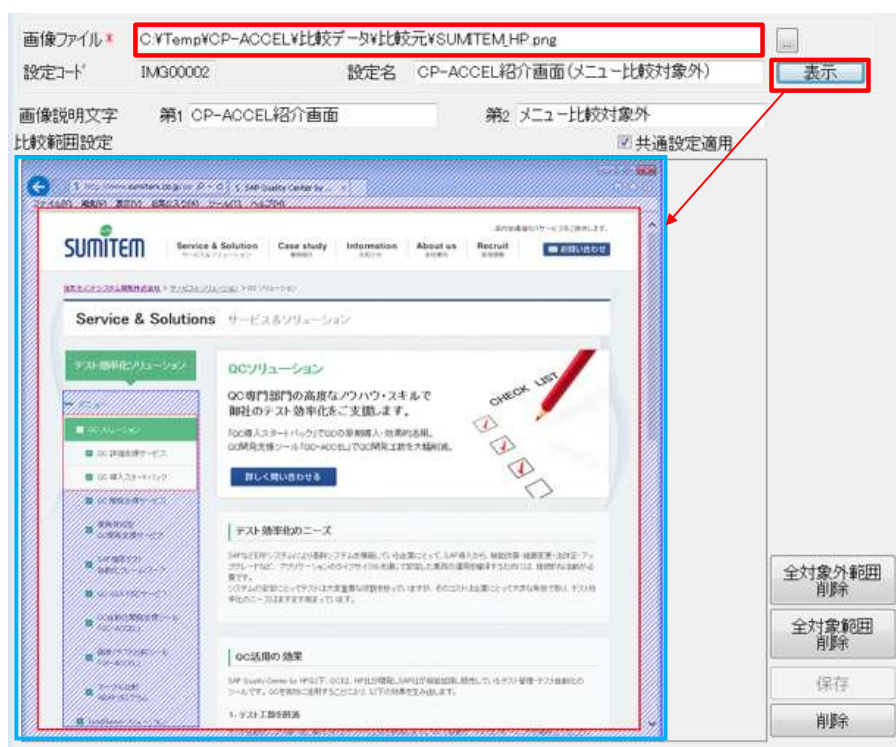
- 「保存」ボタンをクリックし、画像比較(共通)設定を保存します。
- 保存を行うと「設定コード」が自動採番され再度「表示」をクリックすると表示されます。
- 「保存」ボタンせずにCP-ACCELを終了した場合、設定保存の確認のポップアップが表示されます。





⑨ 画像比較(個別)の「設定削除」を行います。

- 「画像比較(個別)」画面で画像ファイルを開きます。
- 「設定削除」ボタンをクリックし、確認画面が表示されますので、問題がなければそのまま「OK」し削除を実行します。



## 7. メンテナンス

### 機 能

「テキスト比較設定」、「画像比較設定（共通/個別）」で設定したファイルを一覧表示し確認する事ができます。

また対象フォルダ内のファイルに対して、「テキスト比較設定」又は「画像比較設定（個別）」の比較設定を、他の類似のファイルに適用できる場合、1つの個別設定を複数のファイルへ割り当てる事が可能です。

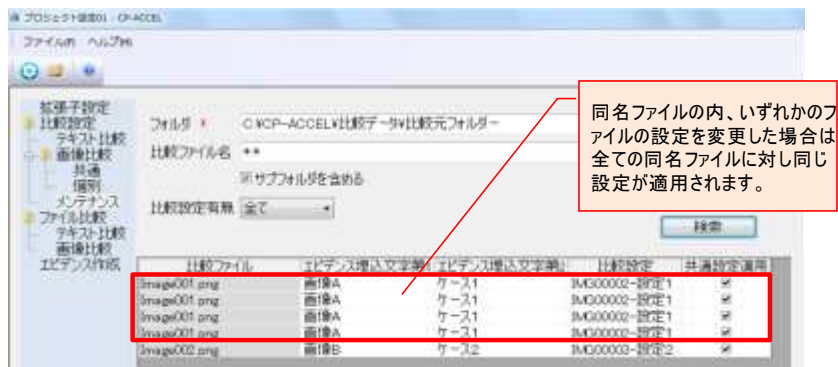
### ポイント

- ✦ 「メンテナンス」は比較元フォルダに対して行ってください。
- ✦ 「メンテナンス」は対象フォルダ内に存在する「拡張子設定」で指定した拡張子のファイルに対して行うことが可能です。（指定拡張子以外は表示されません）
- ✦ サブフォルダを含め対象フォルダ内の全てのテキストファイル、画像ファイルを一覧表示し、同時にメンテナンスする事が可能です。
- ✦ メンテナンス内容は以下の設定が可能です。
  - ✦ テキストファイル
    - ▶ テキスト比較設定の割り当て、変更、取り消し
  - ✦ 画像ファイル
    - ▶ 共通設定適用
    - ▶ 比較設定（個別設定）の割り当て、変更、取り消し
    - ▶ エビデンス埋込文字 第 1/第 2 のコメント内容変更(画像説明文字 第 1/第 2)
- ✦ 比較設定の割り当ては、対象フォルダ配下（サブフォルダ含む）の一意のファイル名に対して設定を行います。サブフォルダ内に同名ファイルが存在する場合は、フォルダが別であっても同じ比較設定が自動的に割り当てられます。

※「メンテナンス」一覧上には、同名ファイルが複数表示されますが、どの同名ファイルへ設定を行っても、最後に保存した設定が優先され、すべての同名ファイルに対して同じ設定が適用されます。

### <サンプルケース>

- 異なる階層に“Image001.png”が存在し、「画像比較設定(個別):IMG00002」が設定されています。



「比較設定」を他のファイルへ適用する場合、以下の注意が必要です。

- ▶ 他の比較設定をプルダウンより選択し、適用させた場合、「エビデンス埋込文字 第 1、第 2」及び「共通設定適用」の項目は**比較設定元の内容が引き継がれません**。  
※上記項目はファイルに対して設定している項目の為、比較設定と連動しません。

比較ファイル	エビデンス埋込文字第1	エビデンス埋込文字第2	比較設定	共通設定適用
Image001.png	画面2	ケース2	IMG00002-設定2	<input checked="" type="checkbox"/>
Image002.png	画面3	ケース3	IMG00003-設定3	<input type="checkbox"/>

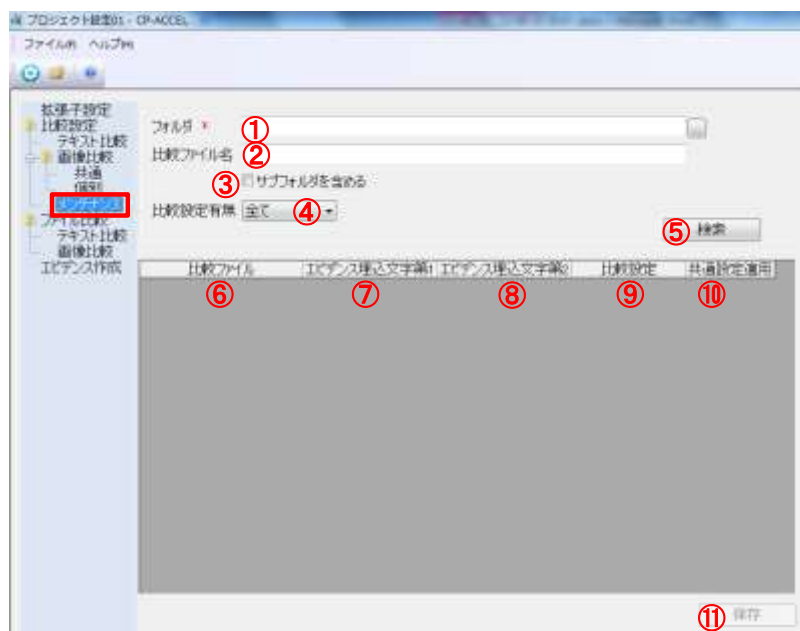
「IMG00003 ⇒ IMG00002」へ変更します。

変更されません。  
※ファイル単位に設定がされている為  
コピー対象外項目となります。

比較ファイル	エビデンス埋込文字第1	エビデンス埋込文字第2	比較設定	共通設定適用
Image001.png	画面2	ケース2	IMG00002-設定2	<input checked="" type="checkbox"/>
Image002.png	画面3	ケース3	IMG00002-設定2	<input checked="" type="checkbox"/>

## 画面項目

### 【メンテナンス】画面



No.	項目	属性	説明
①	フォルダ	必須	比較対象となる <b>比較元フォルダ</b> を指定します。
検索条件			
②	比較ファイル名	入力	任意のファイル名を検索する場合、ファイル名を指定します。 ※ワイルドカード文字「*」での絞り込み検索も可能です。（初期値:「*.」） 例)「*.png」 : 拡張子が png のファイル 「*2015*.」: ファイル名に“2015”の文字を含むファイル全て
③	サブフォルダを含める	チェックボックス	No①で指定したフォルダ配下のサブフォルダ全てを検索対象とする場合、チェックする。
④	比較設定有無	プルダウン	「テキスト比較設定」又は「画像比較設定（個別）」の有無を指定する。 ・全て : 設定の有／無 両方を対象。 ・有 : 設定の有のファイルのみ対象。 ・無 : 設定の無のファイルのみ対象。
⑤	検索	ボタン	検索を実行します。
比較ファイル一覧			
⑥	比較ファイル	表示	No①で指定したフォルダ内のファイル名を表示します。
⑦	エビデンス埋め込み文字第 1	入力	画像ファイルの場合のみ入力してください。 ※画像比較設定（個別）の「画像説明文字-第 1」で登録した内容が初期表示されます。
⑧	エビデンス埋め込み文字第 2	入力	画像ファイルの場合のみ入力してください。 ※画像比較設定（個別）の「画像説明文字-第 2」で登録した内容が初期表示されます。
⑨	比較設定	プルダウン	No①で指定したフォルダ内のファイルへ設定した「テキスト比較設定」又は「画像比較設定（個別）」が表示されます。
⑩	共通設定適用	チェックボックス	画像ファイルの場合のみ入力可能となります。 デフォルト値: チェックあり(共通設定適用) 画像比較設定（個別）設定がされている場合、設定した内容を表示します。
⑪	保存	ボタン	登録、変更した内容が保存されます。

## 操作

### ① メンテナンスを行う対象フォルダを指定し、絞り込みが必要な場合 検索条件を指定します。

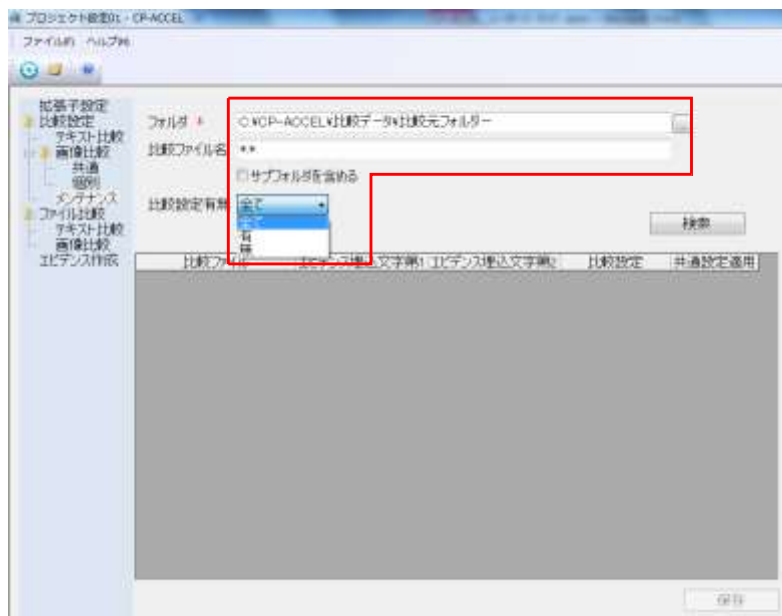
- 「比較ファイル名」はワイルドカード指定の絞り込みが可能です。(単一指定のみ)

＜参考例＞

- 「\*.\*」 : 全ファイル対象 ※ブランク時自動的にセットされます。
- 「\*.png」 : 任意名称のファイル名で且つ、拡張子指定 (PNG 形式の場合)
- 「ABC.png」 : ファイル名 + 拡張子の完全一致
- 「ABC\*.\*」 : ファイル名の先頭が"ABC"から始まる任意のファイル
- 「\*ABC\*.\*」 : ファイル名の何れかに"ABC"を含む任意のファイル (部分一致)
- 「\*ABC.\*」 : ファイル名の末尾が"ABC"で終わる任意のファイル

- 各検索条件の組み合わせは AND (且つ) 条件で検索します。

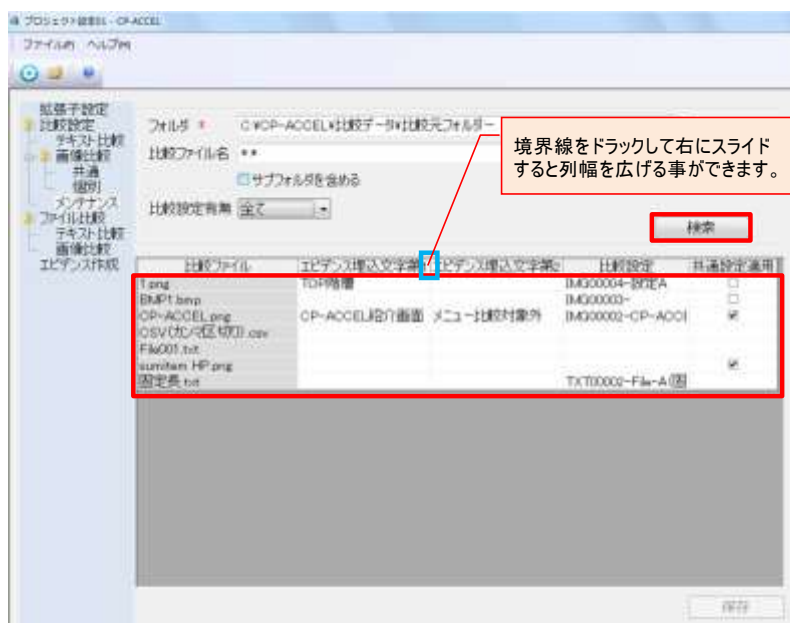
### 【メンテナンス】画面



## ② 指定フォルダ内の、比較ファイル一覧を表示します。

- ✦ 「検索」ボタンをクリックし、検索を実行します。
- ✦ 指定フォルダ内の検索条件に合う比較ファイルが一覧表示されます。
  - ▶ 並び順序は上位フォルダ単位でファイル名 50 音順の昇順で出力します。
- ✦ 検索条件指定無しの場合は、拡張子設定で指定した「テキストファイル」、「画像ファイル」のすべてのファイルが検索対象となります。

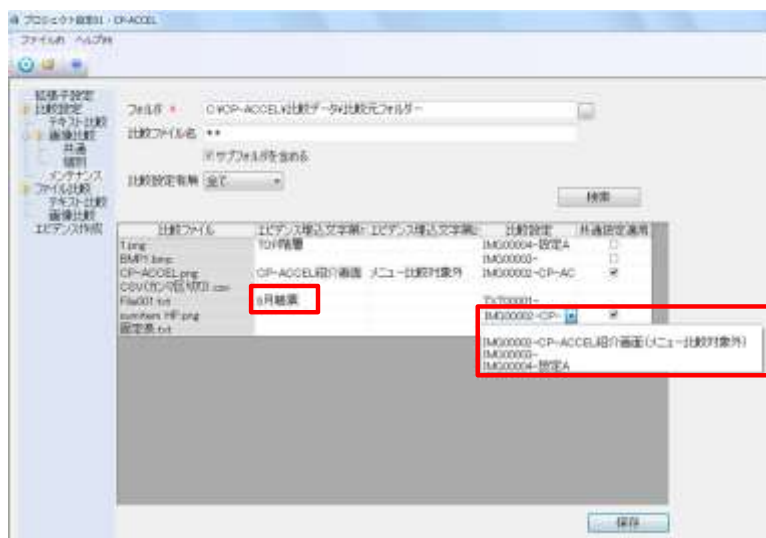
### 【メンテナンス】画面



### ③ 表示されたファイルのメンテナンスを行います。

- ◆ 「エビデンス埋込文字第1」「エビデンス埋込文字第2」項目は画像ファイルのみ入力してください。入力した内容は、「ファイル比較(画像比較)」の結果出力のリスト、および「エビデンス作成」の出力ファイルに記載されます。
- ◆ 「比較設定」は比較設定した内容が類似のファイルに対して適用可能な場合に、割り当てを行い、登録作業を軽減することが可能です。

#### 【メンテナンス】画面





#### ④ 設定内容の保存を行います。

- ◆ 設定内容が変更された場合、「保存」ボタンが押せるようになります。
- ◆ 「保存」ボタンをクリックし、変更した内容を保存します。
  - ▶ 保存した内容は、「テキスト比較設定」又は、「画像比較設定(個別)」へ反映されます。

#### 【メンテナンス】画面



## 8. ファイル比較(テキスト比較)

### 機能

比較元フォルダ、比較先フォルダを指定し、同一名称のファイルを名順に一括比較し、比較結果をMicrosoft Excelに出力します。

※フォルダ可変値項目階層数を指定する事により、同階層のサブフォルダ内で同名ファイルが存在する場合、比較対象とする事が可能です。

### ポイント

- 指定フォルダ配下にサブフォルダが存在する場合、サブフォルダも含め比較対象となります。
- 比較対象となるテキストファイルは、「拡張子設定」で設定した拡張子のテキストファイルのみ対象となります。
- テキスト比較設定が比較元フォルダ配下のテキストファイルに設定されている場合は、比較設定を適用したファイル比較を行います。比較設定がないテキストファイルに対してはファイル内容の全領域が比較対象となります。

### 画面項目

#### 【テキスト比較】画面



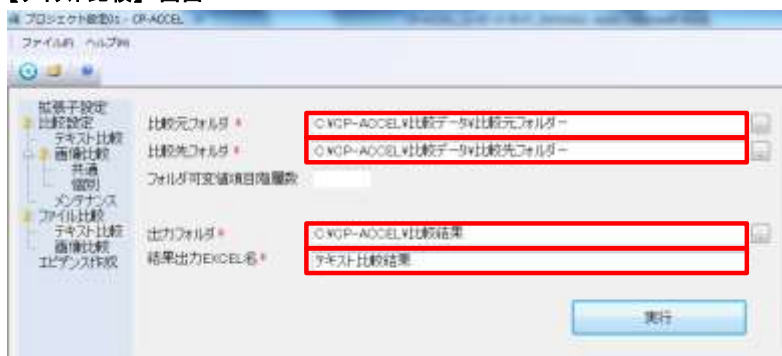
No.	項目	属性	説明
①	比較元フォルダ	必須	比較元となるフォルダパスを指定します。
②	比較先フォルダ	必須	比較先となるフォルダパスを指定します。
③	フォルダ可変値項目階層数	入力	比較対象の同名フォルダが存在しない場合 指定した階層レベル内でのみフォルダ名を無視して、 同名ファイル比較を許容する範囲の階層数を指定 します。
④	出力フォルダ	必須	「結果出力 EXCEL」ファイルの出力先フォルダパスを 指定します。
⑤	結果出力 EXCEL 名	必須	比較結果の EXCEL ファイル名称を指定します。 ※拡張子は自動的に「.xlsx」が付与されます。
⑥	実行	ボタン	比較処理を実行します。

## 操 作

### ① 比較対象となるフォルダ(比較元/比較先)及び、出力フォルダ、結果出力 EXCEL 名の必須項目を指定します。

- ✦ 「フォルダ可変値項目階層数」は必要に応じて任意で指定してください。
- ▶ 設定した場合の動作イメージは 6 章「3.ファイル比較のルール(テキスト、画像)」をご参照ください。
- ✦ 「出力フォルダ」が存在しない場合、実行前にフォルダ作成を先に行ってください。
- ✦ 「結果出力 EXCEL」ファイルがすでに存在する場合、追記で上書き保存されます。

#### 【テキスト比較】画面



## ② 「実行」ボタンをクリックし、比較処理を実施します。

- 実行後、結果メッセージ、件数が表示されます。

- 件数は「**差異件数** / **比較対象件数**」の内容で表示します。

**差異件数** : 比較対象件数の内、差異がある件数

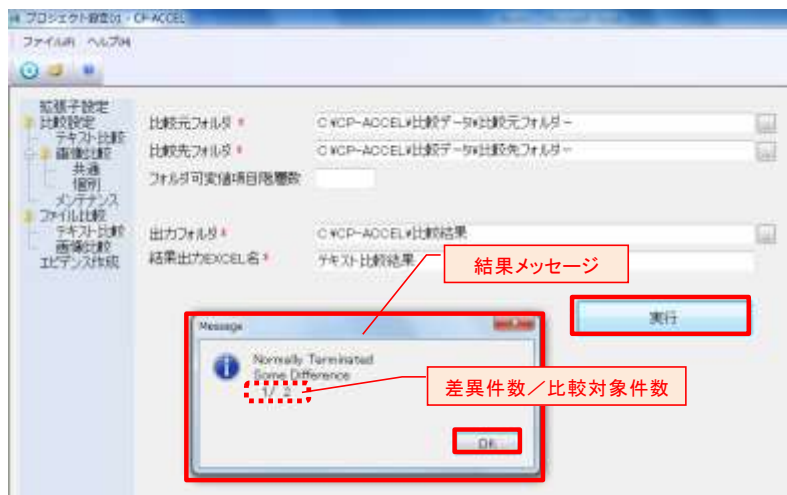
**比較対象件数** : 比較元フォルダ、比較先フォルダ内で同名ファイルが一致した件数

- 「比較**元**フォルダ」のみ、又は「比較**先**フォルダ」のみに存在するファイルは件数にカウントされません。

※ただし、「比較**元**フォルダ」または「比較**先**フォルダ」のみ存在するファイルについては、比較結果ファイルの「比較結果一覧」シートへ“**比較対象ファイルなし**”として表示します。

- 「OK」ボタンをクリックします。

### 【テキスト比較】画面



## ③ 比較結果ファイルを確認します。

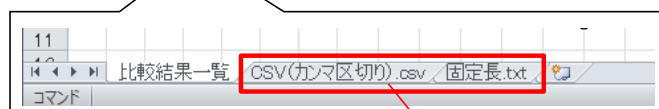
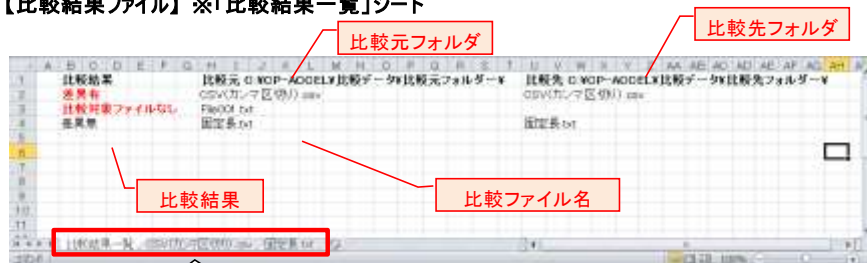
- 比較結果ファイルの構成として「比較結果一覧」、比較対象ファイルの「比較詳細」をシート別に出力します。

「**比較結果一覧**」: 比較対象ファイル、比較元フォルダのみ存在するファイルを  
一覧表示します。

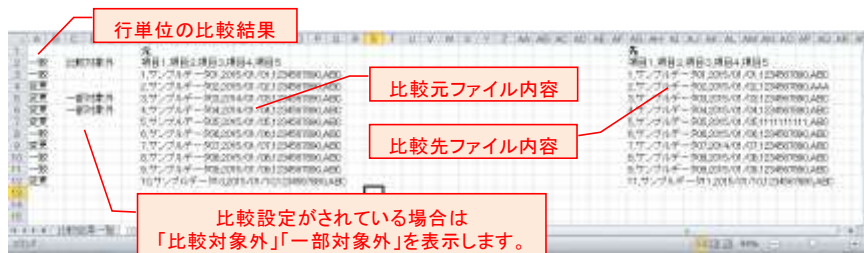
「**比較詳細**」 : 比較対象となったファイル名をシート名としてファイルの比較明細を  
比較ファイル数分をシート別に出力します。



【比較結果ファイル】※「比較結果一覧」シート



【比較結果ファイル】※「比較詳細」シート 例:(CSV(カンマ区切り).csv) “差異有”



【比較結果ファイル】※「比較詳細」シート 例:(固定長.txt) “差異無”

	表		表
	Table1	Table2	Table3
1	表	表	表
2	表	表	表
3	表	表	表
4	表	表	表
5	表	表	表
6	表	表	表
7	表	表	表
8	表	表	表
9	表	表	表
10	表	表	表
11	表	表	表
12	表	表	表
13	表	表	表
14	表	表	表
15	表	表	表
16	表	表	表
17	表	表	表
18	表	表	表
19	表	表	表
20	表	表	表
21	表	表	表
22	表	表	表
23	表	表	表
24	表	表	表
25	表	表	表
26	表	表	表
27	表	表	表
28	表	表	表
29	表	表	表
30	表	表	表
31	表	表	表
32	表	表	表
33	表	表	表
34	表	表	表
35	表	表	表
36	表	表	表
37	表	表	表
38	表	表	表
39	表	表	表
40	表	表	表
41	表	表	表
42	表	表	表
43	表	表	表
44	表	表	表
45	表	表	表
46	表	表	表
47	表	表	表
48	表	表	表
49	表	表	表
50	表	表	表
51	表	表	表
52	表	表	表
53	表	表	表
54	表	表	表
55	表	表	表
56	表	表	表
57	表	表	表
58	表	表	表
59	表	表	表
60	表	表	表
61	表	表	表
62	表	表	表
63	表	表	表
64	表	表	表
65	表	表	表
66	表	表	表
67	表	表	表
68	表	表	表
69	表	表	表
70	表	表	表
71	表	表	表
72	表	表	表
73	表	表	表
74	表	表	表
75	表	表	表
76	表	表	表
77	表	表	表
78	表	表	表
79	表	表	表
80	表	表	表
81	表	表	表
82	表	表	表
83	表	表	表
84	表	表	表
85	表	表	表
86	表	表	表
87	表	表	表
88	表	表	表
89	表	表	表
90	表	表	表
91	表	表	表
92	表	表	表
93	表	表	表
94	表	表	表
95	表	表	表
96	表	表	表
97	表	表	表
98	表	表	表
99	表	表	表
100	表	表	表

“差異無”の場合は全て  
「一致」の比較結果を表示。

## 9. ファイル比較(画像比較)

### 機 能

比較元フォルダ、比較先フォルダを指定し、同一名称のファイルを名順に一括比較し、比較結果をMicrosoft Excelに出力します。

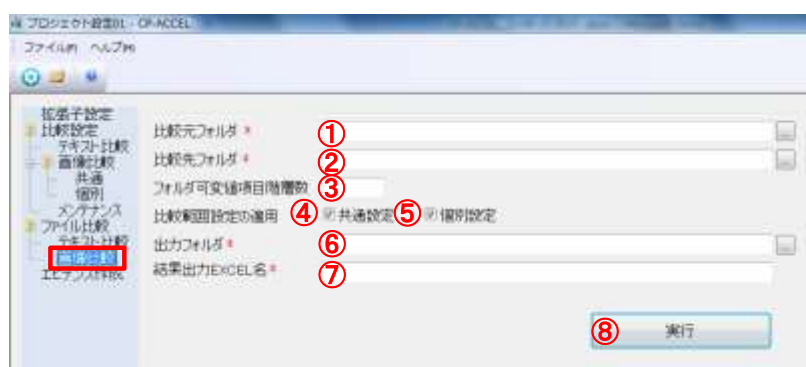
※フォルダ可変値項目階層数を指定する事により、同階層のサブフォルダ内で同名ファイルが存在する場合、比較対象とする事が可能です。

### ポイント

- 指定フォルダ配下にサブフォルダが存在する場合、サブフォルダも含め比較対象となります。
- 比較対象となる画像ファイルは、「拡張子設定」で設定した拡張子の画像ファイルのみ対象となります。
- 画像比較設定(共通、個別)が比較元フォルダ配下の画像ファイルに設定されている場合は、比較設定を適用したファイル比較を行います。比較設定がない画像ファイルに対してはファイル内容の全領域が比較対象となります。
- 出力順序はファイル名 50 音順で出力します。  
ただし、サブフォルダが存在する場合は上位階層のサブフォルダより配下のサブフォルダ単位順に出力します。

### 画面項目

#### 【画像比較】画面



No.	項目	属性	説明
①	比較元フォルダ	必須	比較元となるフォルダパスを指定します。
②	比較先フォルダ	必須	比較先となるフォルダパスを指定します。
③	フォルダ可変値項目階層数	入力	比較対象の同名フォルダが存在しない場合 指定した階層レベル内でのみフォルダ名を無視して、 同名ファイル比較を許容する範囲の階層数を指定 します。
④	比較範囲設定の適用 「共通設定」	チェック ボックス	「共通設定」の比較範囲を適用する場合チェックを 付けます。 ▶ チェックあり : 適用 ※初期値 ▶ チェックなし : 非適用 ※画像ファイル全ての範 囲が比較対象となります。
⑤	比較範囲設定の適用 「個別設定」	チェック ボックス	「個別設定」の比較範囲を適用する場合チェックを 付けます。 ▶ チェックあり : 適用 ※初期値 ▶ チェックなし : 非適用 ※画像ファイル全ての範 囲が比較対象となります。
⑥	出力フォルダ	必須	「結果出力 EXCEL」ファイルの出力先フォルダを指 定します。
⑦	結果出力 EXCEL 名	必須	比較結果の EXCEL ファイル名称を指定します。 ※拡張子は自動的に「.xlsx」が付与されます。
⑧	実行	ボタン	比較処理を実行します。

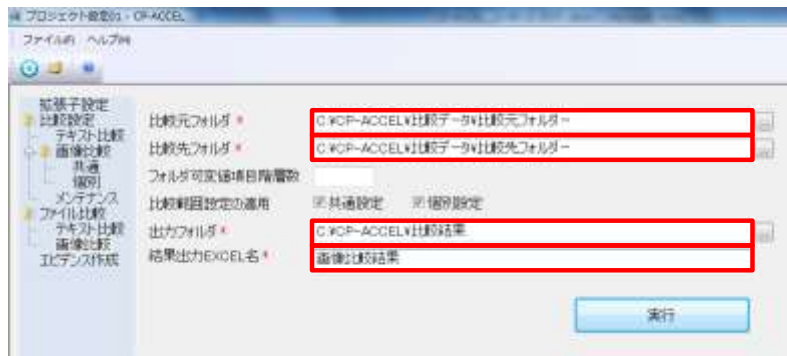
## 操 作

### ① 比較対象となる「フォルダ(比較元/比較先)」及び、「出力フォルダ」、「結果出力 EXCEL 名」の必須項目を指定します。

- ✦ 「フォルダ可変値項目階層数」は必要に応じて任意で指定してください。
  - ▶ 設定した場合の動作イメージは 6 章「3.ファイル比較のルール(テキスト、画像)」をご参照ください。
- ✦ 「画像比較設定(共通)」、「画像比較設定(個別)」は初期値:チェックあり(比較設定適用)となっており、必要に応じて、チェックをはずしてください。
- ✦ 「出力フォルダ」が存在しない場合、実行前にフォルダ作成を先に行ってください。
- ✦ 「結果出力 EXCEL 名」ファイルがすでに存在する場合、追記で上書き保存されます。



## 【画像比較】画面



### ② 「実行」ボタンをクリックし、比較処理を実施します。

- ✦ 実行後、結果メッセージ、件数が表示されます。

- ▶ 件数は「**差異件数** / **比較対象件数**」の内容で表示します。

**差異件数** : 比較対象件数の内、差異がある件数

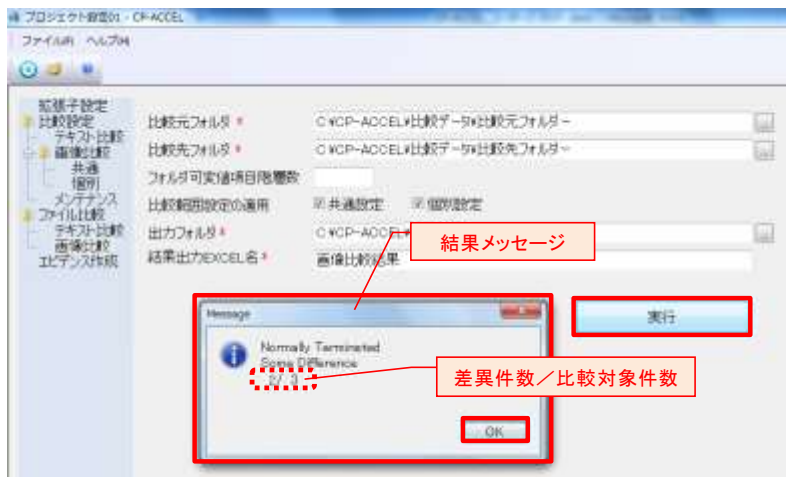
**比較対象件数** : 比較元フォルダ、比較先フォルダ内で同名ファイルが一致した件数

- ▶ 「比較**元**フォルダ」のみ、又は「比較**先**フォルダ」のみに存在するファイルは件数にカウントされません。

※ただし、「比較**元**フォルダ」または「比較**先**フォルダ」のみ存在するファイルについては、比較結果ファイルの「比較結果一覧」シートへ「**比較対象ファイルなし**」として表示します。

- ✦ 「OK」ボタンをクリックします。

## 【画像比較】画面



### ③ 比較結果ファイルを確認します。

- 比較結果ファイルの構成として「エビデンス」シート上に比較対象となった全ての比較結果の画像を出力します。

「エビデンス」：比較対象画像ファイル、比較元フォルダのみ存在する画像ファイルを

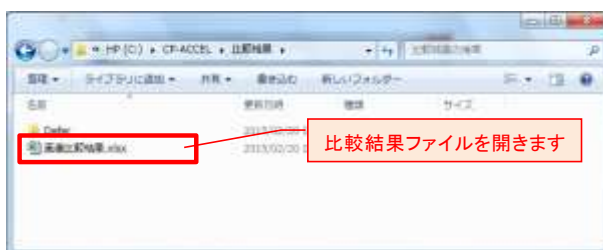
「比較元画像」、「比較元画像」「差異画像」を1列に出力します。

- “**差異あり**”の場合3列目に「差異画像」が表示され、画像の差異のある部分が**赤く塗りつぶされた状態**で表示されます。差異がない箇所はグレーの透かし状態で表示します。

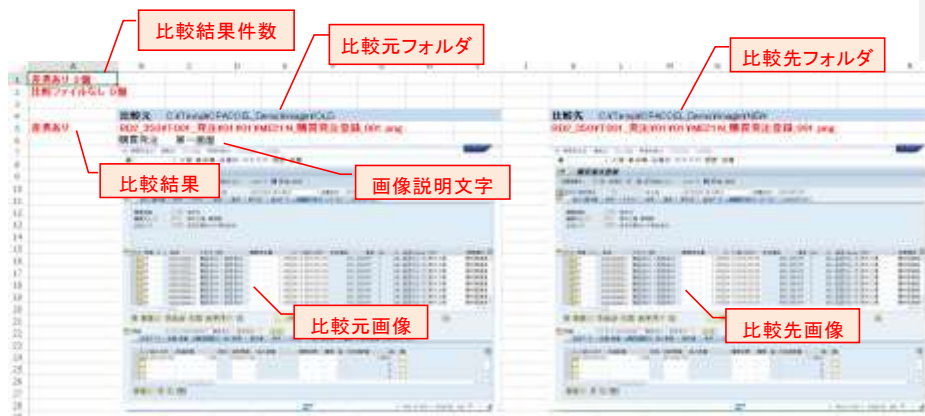
- 出力フォルダの直下に「Defer」の名称でフォルダを自動的に作成します。

こちらに「差異画像」のビットマップ(BMP)ファイルが保存されますので、この画像でも確認する事が可能です。

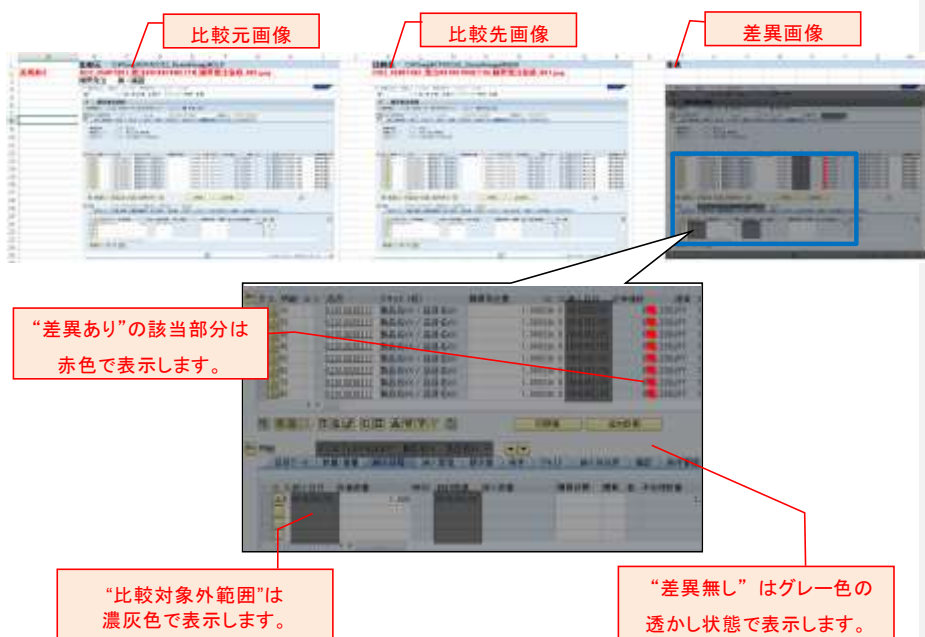
- この「差異画像」は自動で削除されませんので、不要な場合は**手動で削除**をしてください。



【比較結果ファイル】※「エビデンス」シート



【比較結果ファイル】※「差異あり」の表示



## 10. エビデンス作成

### 機 能

画像を格納したフォルダを指定し、エビデンスを作成します。

※エビデンスの出力は名称順に Microsoft Excel に貼り付けを行います。

### ポイント

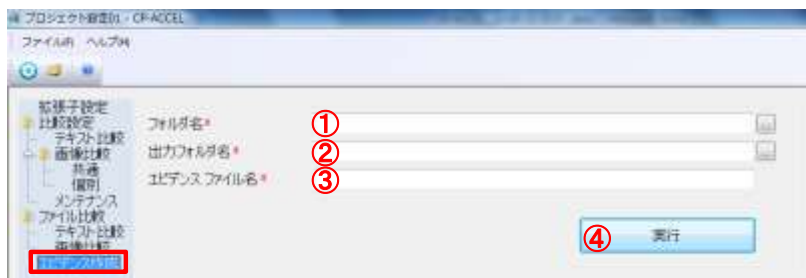
✦ 指定フォルダ配下のすべての画像ファイルを対象に Excel に出力します。

- ✦ 画像ファイルの対象は「拡張子設定」にて指定した画像ファイルを対象とします。
- ✦ サブフォルダが存在する場合、出力対象となります。
- ✦ 出力順序はファイル名 50 音順で出力します。  
ただし、サブフォルダが存在する場合は上位階層のサブフォルダより配下のサブフォルダ単位順に出力します。
- ✦ エビデンスに貼り付ける画像サイズは以下のサイズを基準として、“幅”又は“高さ”が基準サイズを超えないサイズに自動的に縮小します。  
※“幅”及び“高さ”が基準サイズに満たない場合は、実画像サイズで貼り付けを行います。

- ▶ 幅 :15 cm
- ▶ 高さ:11 cm

### 画面項目

#### 【エビデンス作成】画面



No.	項目	属性	説明
①	フォルダ名	必須	エビデンス画像の取得元フォルダパスを指定します。
②	出力フォルダ名	必須	エビデンスファイルの出力先フォルダを指定します。

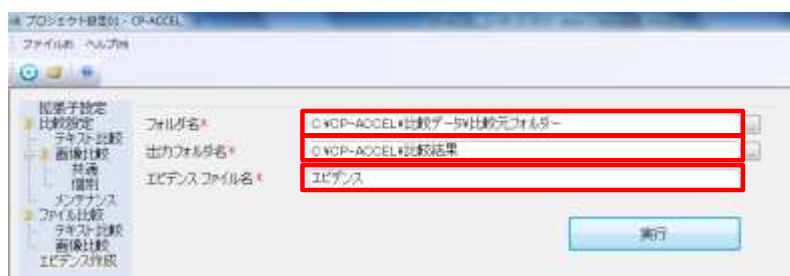
③	エビデンスファイル名	必須	エビデンスファイルのファイル名称を指定します。 ※拡張子は自動的に「.xlsx」が付与されます。
④	実行	ボタン	エビデンス作成処理を実行します。

## 操 作

### ① 対象となるフォルダ及び、出力フォルダ、エビデンスファイル名の必須項目を指定します。

- 「出力フォルダ」が存在しない場合、実行前にフォルダ作成を先に行ってください。
- 「エビデンスファイル名」がすでに存在する場合、上書き保存（前回のエビデンスは削除）されます。

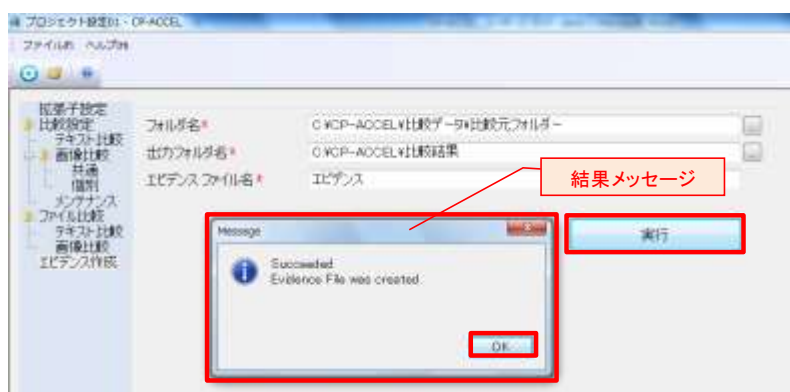
#### 【エビデンス作成】画面



### ② 「実行」ボタンをクリックし、エビデンス作成処理を実施します。

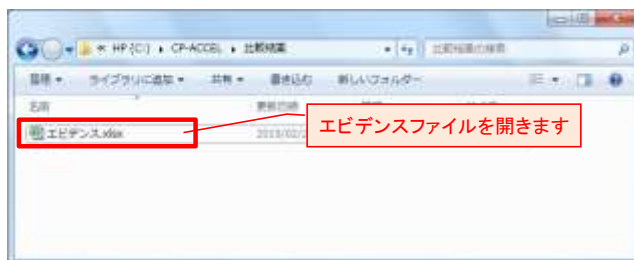
- 実行後、結果メッセージが表示されます。「OK」ボタンをクリックします。

#### 【エビデンス作成】画面



### ③ エビデンスファイルを確認します。

- 構成として 1 シート上に比較対象となった全ての比較結果の画像を出力します。



#### 【エビデンスファイル】



以上



# CP-ACCEL

**住友セメントシステム開発株式会社**  
**情報システム事業部 QC コンサルティング部**

〒105-0012

東京都港区芝大門 1-1-30 芝NBFタワー3F

TEL : 03-6403-7861 FAX : 03-6403-7872

E-MAIL : qc\_info@sumitem.co.jp

Web : <http://www.sumitem.co.jp/service/qualitycenter>



住友セメントシステム開発株式会社  
品質マネジメントシステム認証番号: 03-001-0001  
登録番号: 03-001-0001